



Architect ユーザーマニュアル



目次

1	Architect とは?	1
2	ソリューションデザインのプロセス	1
3	作業の開始	2
3.1	既存環境の記録と理解	2
3.2	ソリューションの作成	2
4	[機器の処理状態] タブ	4
5	[プロダクトカタログ] タブ	7
5.1	プロダクトカタログ内のカテゴリー変更	8
5.2	再配置する機器のプロダクトカタログへの追加	10
5.3	再配置された機器のカタログ内での位置	11
5.4	プロダクトカタログへの新しいモデルの追加	12
5.5	新しいカタログの作成	13
5.6	プロダクトカタログのインポートとエクスポート	14
6	[プロダクトコスト] タブ	14
6.1	コストデータの入力	15
6.2	プロダクトコストデータのインポートとエクスポート	16
7	[ソリューションデザイン] タブ	16
7.1	フロアへの仮想機器の追加	18
7.2	仮想アセットアイコンのタイプの変更	20
7.3	仮想機器からのボリューム移管	20
7.4	複数機器からのボリューム移管	20
7.5	ボリューム移管を元に戻す	20
7.6	ボリュームごみ箱	21
7.7	無効なボリューム移管	21
7.8	既存アセットの処理状態の変更	22
7.9	ボリューム移管の統計	22
7.10	ソリューションの生成	24
7.11	ソリューション生成エラー	26
7.12	アセットステータスラベル	27
7.13	Architect の決定事項のオーバーライド	29
7.14	仮想機器へのメーカーとモデルの手動による割り当て	29
7.15	再配置されたアセットの手動マッピング	30
7.16	フィルターの使用	32
7.17	[統計] タブ	33
7.18	[ファイナンシャル] タブ	34



7.19	[ユーザー／機器比率] タブ	34
8	[フューチャーステート (将来の状態)] タブ	35
8.1	変更の要約の表示	35
9	の状態のグリーン分析の作成	37
9.1	将来の状態の推測値	37
10	ソリューションレポートの作成	38
10.1	移動および変更のレポート	38
10.2	機器の処理状態レポート	38
10.3	将来の状態の提案	38
10.4	ソリューションレポートの編集	39
11	ソリューションのエクスポートとインポート	39
11.1	Asset DB プロジェクトへのソリューションの エクスポート	39
11.2	プロジェクトとソリューションのペアとしての ソリューションデータのエクスポ ート	40
11.3	ソリューションのみのエクスポート	41
11.4	ソリューションデータのインポート	41
12	無効な変更	42
12.1	既存フリートのボリュームの調整	42
12.2	既存アセットの削除	42
12.3	メーカーとモデルデータの変更	42
13	よくある質問	43



1 Architect とは？

Asset DB Architect は、印刷フリート（これはすべての印刷機器の総称です）を再デザインするプロセスの支援を目的として開発されたソフトウェアツールです。機器の処理状態を示すマトリックスにより、Asset DB を使用して取得された現状の印刷フリートを、廃棄、再配置、および配置変更なし（配置済み）の機器にそれぞれ分類します。その後、プロダクトカタログを使用して、再デザインされたフリートにどの新しい機器を含めるかを決定できます。フリートはデザイナー表示を使って変更できます。グラフィカルな方法で新しいアセットを作成したり、既存のアセットから新しいアセットに機能やボリューム（印刷量）を自動的にトランスファー（移管）することができます。再配置としてマークされた既存環境からのアセットは自動的に新しいフリートに再配置されるので、ユーザー操作の必要性が最小限に抑えられます。再配置プロセスにより、各アセットを最も必要としている場所に設置できる最適なソリューションを見つけることが可能です。新しいフリートをデザインすると、評価表示が開きます。この表示を使ってデザインの詳細を確認し、既存のフリートに対して行う必要のある変更を判断できます。また、新しいソリューションのコストと環境への影響も計算できるほか、変更の要約レポートをテキスト形式やグラフィック形式で作成できます。

2 ソリューションデザインのプロセス

Asset DB Architect は単なるソフトウェアツールではありません。Architect のワークフローには、ソリューションデザインのプロセスそのものが具現化されています。図 1 にあるように、このデザインプロセスは一連のステップに分かれています。各ステップの詳細については、以下のセクションで説明します。

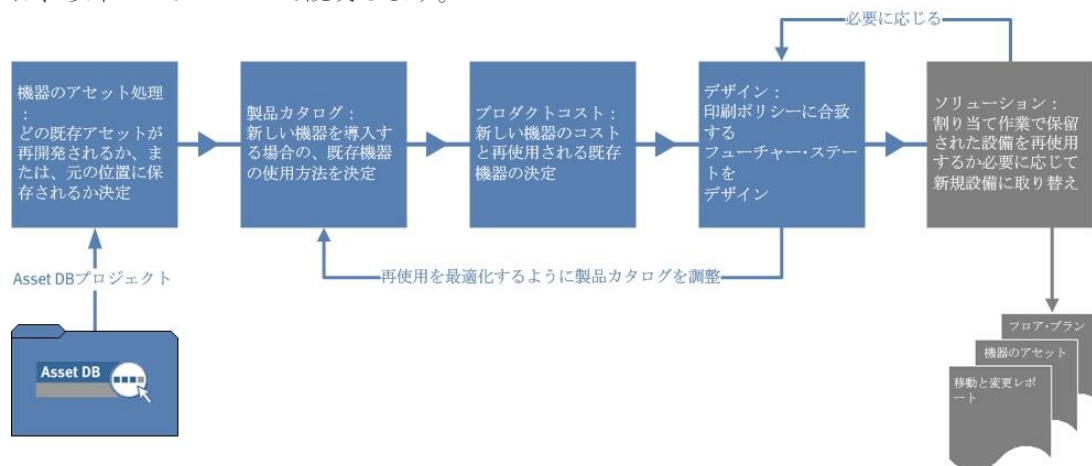


図 1. ソリューションデザインのプロセス

ソリューションデザインプロセスは、以下の条件を含む印刷ポリシーが合意の上すでに実施されている場合に最大の効果を発揮します。

- 全体的なユーザー対機器の比率
- カラー機器と A3 機器へのアクセス
- 各タイプの機器までのユーザーの想定歩行距離
- 特定の部署やワークグループに存在する特別な必要条件
- 既存アセットの再利用／廃棄のガイドライン
- 汎用のデザインと、メーカー／モデル固有のデザインのどちらを使用するか

以上のガイドラインが明確に定義されていれば、Architect へのデータ入力が簡素化されます。



3 作業の開始

Asset DB Architect を使用したソリューションデザインは、まず既存の印刷環境を表す Asset DB プロジェクトから開始します。作業を進める前に Asset DB Auditor と Analyst のマニュアルを読み、概念を理解しておく必要があります。

3.1 既存環境の記録と理解

ソリューションデザインの第一段階は既存の印刷環境の詳細な記録と分析です。後日分析とデザインの作業を行うには、以下のカテゴリのデータを収集する必要があります。

機器の属性

プロジェクト内の各アセットについて、有効なメーカーとモデルのデータを記録することが重要です。このデータによって Architect の各表示でアセットを特定できるようになります。将来のフリートに必要とされる印刷機能を判断するには、現在のフリートの書類処理容量などを把握しておく必要があります。

ロケーションデータ

現在のフリート機器が実際にある物理的なロケーションは、将来のフリート機器の配置を決定するために不可欠な情報です。

ボリューム（印刷量）

ソリューションデザインプロセスでは既存の印刷フリートのボリュームデータを利用します。したがって、全アセットの有効な月間ボリュームデータを Asset DB プロジェクトに確実に入力することが必要となります。これを行うにはいくつか方法があります。詳細は Asset DB のマニュアルを参照してください。

印刷環境を記録したら、新しいデザインを開始する前に、まず徹底したデータ分析が必要です。分析の際には、サイトにおける機器とボリュームの配分、フリート内のカラーと A3 の印刷機能の配分、および各ロケーションの印刷容量と必要印刷量の差に特に注意します。

便利なヒント：ソリューションを作成する前にプロジェクトのボリュームが安定していることを確認してください。ソリューションを開始した後でボリュームを再計算しないようにします。ソリューションの開始後にボリュームを再計算すると、ソリューションデザインでボリュームが負の値になったり、エラーが発生する可能性があります。

3.2 ソリューションの作成

Asset DB では複数のプロジェクトを作成しなくても、1つのプロジェクトに複数のソリューションを割り当てることで将来の複数のフリートオプションを設定できます。[ファイル]>[新しい]>[ソリューション]を選択すると、新しいソリューションが作成され、現在開いているプロジェクトに関連付けられます。



図 2. 新しいソリューションの作成

新しいソリューションが作成されると、図 3 のように画面上部に 5 つの新しいタブが表示されます。

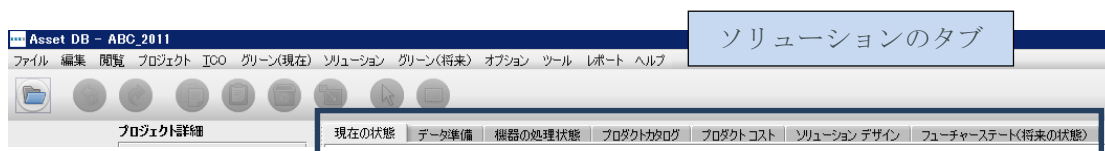


図 3. ソリューションのタブ

各タブは、前述のソリューションデザインプロセスにおける各段階に対応しています。各タブの役割の概要は次のとおりです。

- **現在の状態**：このタブには現在の印刷環境が表示され、Asset DB プロジェクトを表しています。
- **データ準備**：このタブでは現在の状態のメーター値を確認したり、現在のフリートのボリュームを生成できます。
- **機器の処理状態**：このタブではフリート内の各機器のアセット処理に関する決定を行うことができます。
- **プロダクトカタログ**：将来のフリートに含める新しい機器および、その印刷容量に関する決定を行うことができます。
- **プロダクトコスト**：このタブでは将来のフリートに配置する機器のコストデータを入力できます。
- **ソリューションデザイン**：これは新しい仮想印刷環境をデザインするための設計用表示です。
- **フューチャーステート（将来の状態）**：このタブには新しい機器および再配置される機器を配置した後の、新しい印刷環境が表示されます。各フロアのすべての変更の要約も表示されます。

[現在の状態] タブと [データ準備] タブについては本書では説明しません。詳細については Asset DB Auditor および Analyst のマニュアルを参照してください。



4 [機器の処理状態] タブ

タイプ	サイト	ビル	フロア	部署	製造者	モデル	アセット番号	シリアル No.	年	月	年間経費	廃棄され	処理状態
1	London	HQ	Floor 1	Sales	Hewlett-Packard	DeskJet4000c	NT00002	12346	155			7,5000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Sales	Hewlett-Packard	DeskJet500C	NT00003	12347	104			7,5000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	IT	Hewlett-Packard	LaserJet4050N	NT00015	12359				1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Finance	Hewlett-Packard	LaserJet4050TN	NT00028	12372	84			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Operations	Hewlett-Packard	ColorCopier110	NT00005	12429	59				未決定
1	London	HQ	Floor 1	Admin	Hewlett-Packard	LaserJet2200DT	NT00007	12351				1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Operations	Canon	L200	NT000175						未決定
1	London	HQ	Floor 1	Admin	Hewlett-Packard	DeskJet500C	NT00078	12422				7,5000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Sales	Hewlett-Packard	LaserJet4000N	NT00001	12345	96			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Admin	Hewlett-Packard	LaserJet12100	NT00061	12405	119			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Admin	Hewlett-Packard	LaserJet12100TN	NT00062	12406	72			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	IT	Brother	IntelliFax1550MC	NT000164						未決定
1	London	HQ	Floor 1	Finance	Hewlett-Packard	LaserJet4000TN	NT00029	12373	143			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Operations	Hewlett-Packard	ColorMFP210	NT00086	12430	73			7,5000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Operations	Hewlett-Packard	LaserJet4050TN	NT00049	12393				1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1		Hewlett-Packard	ColorCopier120	NT00092	12436	133			7,5000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Operations	Hewlett-Packard	DeskJet710	NT00074	12418				7,5000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Admin	Canon	L200	NT000162						未決定
1	London	HQ	Floor 1	Sales	Hewlett-Packard	LaserJet9050mfp	NT00079	12423	83			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	IT	Hewlett-Packard	ScanJetADF	NT000181						未決定
1	London	HQ	Floor 1	Finance	Hewlett-Packard	LaserJet12100TN	NT00030	12374	79			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Operations	Hewlett-Packard	Photosmart1115	NT00036	12380	91			7,5000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Procurement	Xerox	214DC	NT00088	12432	95				未決定
1	London	HQ	Floor 1	Procurement	Xerox	DocumentCentre340	NT00093	12437	80			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Admin			NT000186						未決定
1	London	HQ	Floor 1	Marketing	Xerox	DocumentCentre230	NT00080	12424	97			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Finance	Hewlett-Packard	LaserJet12100TN	NT00031	12375	72			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Operations	Hewlett-Packard	LaserJet2200	NT00037	12381	96			1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1	Quiet Area	Hewlett-Packard	LaserJet2200	NT00050	12394				1,2000	未決定
1	London	HQ	Floor 1		Brother	IntelliFax1550MC	NT000173						未決定

図 4. [機器の処理状態] 表示

[機器の処理状態] 表示には、プロジェクトの範囲内にあるすべてのアセットが表形式で一覧されます。現在の状態で「スコープ外」（範囲外）とマークされたアセットは、[機器の処理状態] に表示されません。

画面右上にあるナビゲーションツリーを使用して、サイト／ビル／フロアごとのアセットを表示できます。表の表示には各アセットのさまざまな属性が示されます。属性はアセットの処理状態を決定するのに役立ちます。追加の属性を表示するには、列見出しを右クリックして[詳細]を選択します（図 5）。

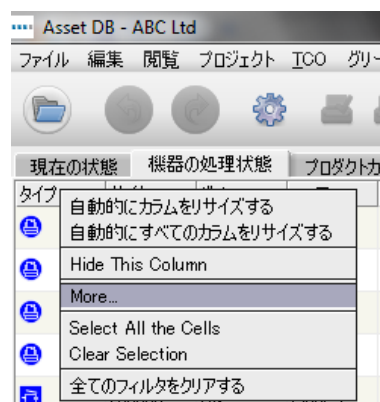





図 5. 機器の処理状態の表への新しい列の追加

列を選択するウィンドウが開き、表示／非表示にするカテゴリーを指定できます。



[機器の処理状態] 表示の目的は、プロジェクトの各アセットの処理状態を決定することです。アセットには3つの処理状態のいずれかを割り当てることができます。

- 
 廃棄 – 新しいフリートで必要とされないアセットです。
- 
 再配置 – 可能であればアセットを新しいフリートで利用します。
- 
 元の場所 – アセットはフリートの現在位置に残したままにします。ボリュームは現在の値以下になります。

各機器の処理状態の決定にはその使用年数やコストその他の複数の要因が影響します。これらの要因はすべて印刷ポリシーで指定する必要があります。

アセットの処理状態を選択する方法は次の3つあります。アセットの行をハイライトしてツールバーのアセット処理状態ボタンのいずれかを使用するか、アセットの表の行を右クリックしてポップアップメニューから処理状態を選択するか、あるいは [処理状態] 列のドロップダウンを使用することもできます (図6参照)。デフォルトでは各アセットの処理状態が [未決定] に設定されています (これは [処理状態] 列に表示されます)。

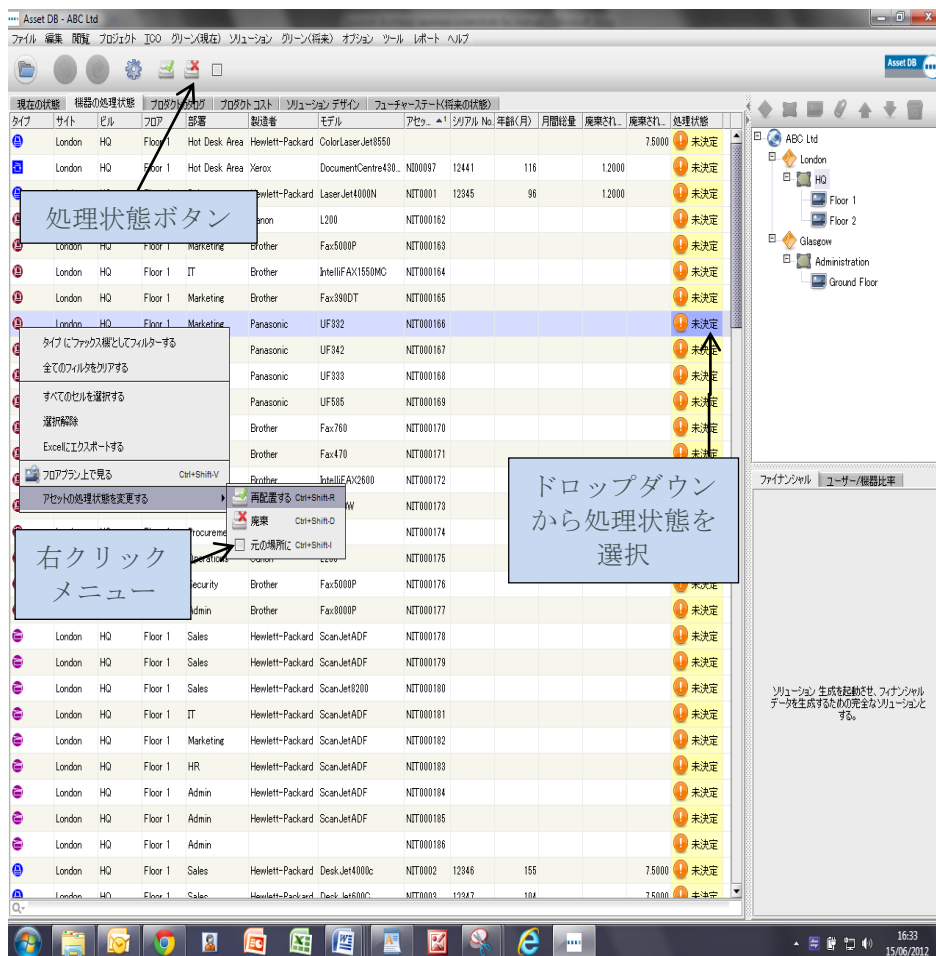


図 6. 機器の処理状態の変更



複数のアセットに 1 つの処理状態を割り当てるには、処理状態の行を複数ハイライトしてから、前述した方法のいずれかを使ってアセット処理状態を選択します。複数の行をハイライトするには、マウスの左ボタンでドラッグするか、または対象となる最初の行を選択し、**Shift** キーを押しながら最後の行をクリックします。連続していない複数の行をハイライトするには、**CTRL** キーを押しながらクリックします。

場合によっては、アセットの処理状態を決定する前にフロアプラン上でアセットを表示する必要があります。これにはアセットの行を右クリックして [フロアプラン上で見る] を選択します (図 7 を参照)。

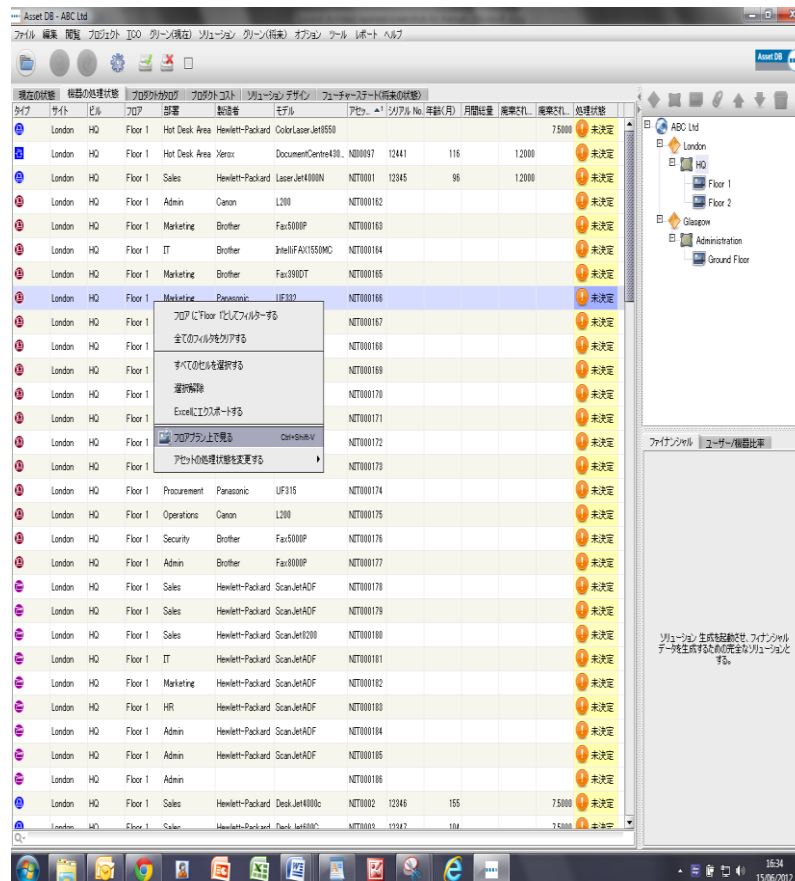


図 7. 機器をフロアプラン上で表示する

[ソリューションデザイン] タブが開いてフロア上のアセットがハイライト表示されます。

注：機器の処理状態は [ソリューションデザイン] 表示でも変更できます (セクション 7.8 を参照)。

表データをソートするには、任意の列の見出しをクリックします。同じ見出しをもう 1 度クリックするとソート順序が逆になります。また、図 8 にあるように、各列の見出しの横にある下矢印をクリックすると、表にフィルターを適用できます。これは、表示された任意の属性に基づいてアセットをグループにまとめて一度の操作で処理状態を割り当てることのできる、非常に便利な機能です。



図 8. フィルターの適用

列の幅を変更するには、列見出しの間の境界線をクリックし、マウスをドラッグします。

5 [プロダクトカタログ] タブ

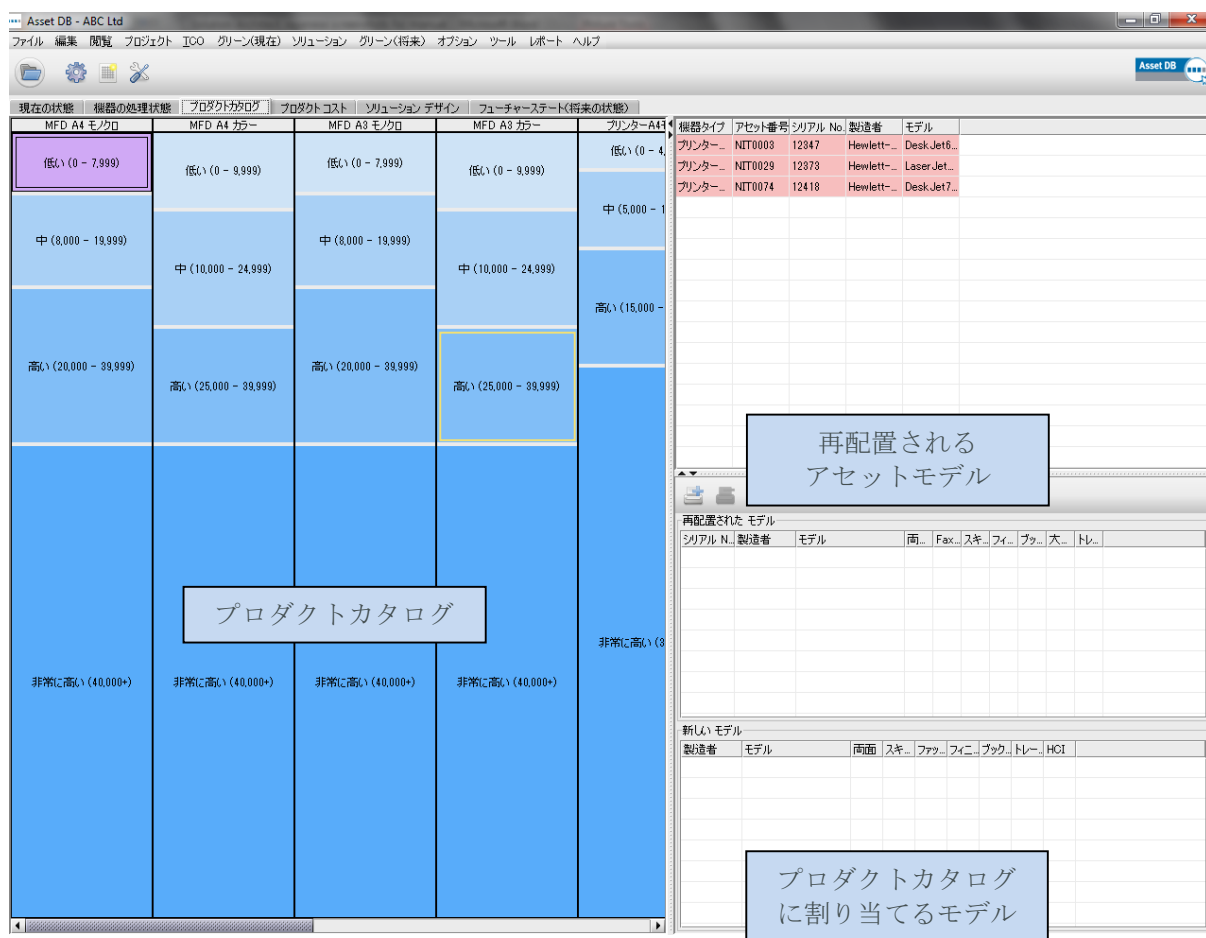


図 9. [プロダクトカタログ] 表示



[プロダクトカタログ] 表示には 3 つの領域があります。まず右上のパネルには再配置される個々のアセットを含む表があります。その下には空白のパネルがあります。このパネルには、将来の状態のフリートを構成する、左のメインパネルの列で割り当てられるアセットに関する情報が含まれます。

メインパネルのプロダクトカタログは、それぞれが特定の機器カテゴリを表す一連の列で構成されています。これを特定の必要条件に合わせてカスタマイズします。各列が表すカテゴリは列見出しに表示されます。

5.1 プロダクトカタログ内のカテゴリ変更

プロダクトカタログにはあらかじめ設定されている 10 個の機器カテゴリがあります。

- MFD A4 モノクロ
- MFD A4 カラー
- MFD A3 モノクロ
- MFD A3 カラー
- プリンター A4 モノクロ
- プリンター A4 カラー
- プリンター A3 モノクロ
- プリンター A3 カラー
- ファックス
- スキャナー

(既存の印刷フリートから取得された) 必要なカテゴリのみが表示されるので、最初から上記すべてがカタログに含まれているとは限りません。カテゴリは追加／削除ボタンを使って追加したり削除できます。



図 10. カテゴリ列の追加／削除

プロダクトカタログのメインパネルの各カテゴリ列には、説明と数値範囲が含まれた一連のボリュームバンドがあります。ボリュームバンドはその列で説明されている機器のタイプの全体的なボリューム範囲の分類を示しています。各バンドの範囲を調節するには 2 つのバンドの間の境界線をクリックし、上下にドラッグします。

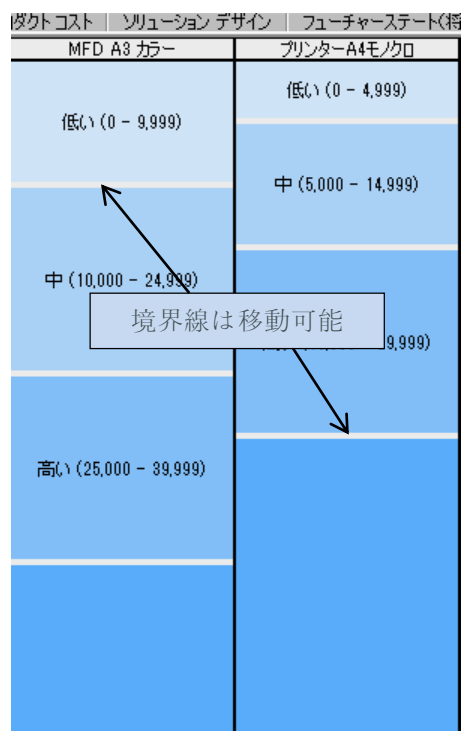


図 11. ボリュームバンド

各列は、その機器カテゴリーの「ボリュームプロファイル」を表します。プロダクトカタログ設定の最初のステップは、低、中、高、または非常に高い、の各カテゴリーに含める機器の印刷容量を決定することです。

たとえば、図 11 のプロダクトカタログでは、モノクロ A3 MFD の場合に毎月 0～7,999 ページまで印刷可能なものは低ボリューム機器に分類されています。また、8,000～19,999 ページまで印刷可能なものは中ボリューム機器に分類されます。



5.2 再配置する機器のプロダクトカタログへの追加

すべての機器カテゴリにボリュームバンドを設定したら、これらのバンドに機器を追加してカタログを作成します。

プロダクトカタログは2つの機器グループで構成されます。最初のグループには新しい機器が含まれ、第2グループには [機器の処理状態] 表示で再配置されたモデルが含まれます。

再配置が指定されたアセットはすべて右上のパネルにある表にシリアル番号と共に表示されます（図 9 参照）。初期設定では表のすべての行が赤でハイライトされ、プロダクトカタログに割り当てられていないことを示します。再配置する機器をプロダクトカタログに追加するには、まずその機器を選択して赤に変換し、もう1度クリックして左のプロダクトカタログのボリュームバンドのいずれかにドラッグして移動します。ドラッグ操作を開始すると、モデルをドロップする目標の列が赤い境界線でハイライトされます（図 12 参照）。

現在の状態	データ準備	TCO分析	グリーン分析(現状)	機器の処理
MFD A3 モノクロ		プリンターA4モノクロ		
低い (0 - 7,999)		低い (0 - 4,999)		
中 (8,000 - 19,999)		中 (5,000 - 14,999)		
高い (20,000 - 39,999)		高い (15,000 - 29,999)		

図 12. 正しい機器カテゴリの自動ハイライト

ハイライトされた列でボリュームバンドを1つ選択し、マウスボタンを解放すると、そのバンドにモデルが割り当てられます。モデルが正しいボリュームバンドにドロップされると、バンドの説明テキストが下線付きの太字で表示されます。ボリュームバンドを選択して右下のパネルを見ると、[再配置されたモデル]の下にそのモデルと容量が表示されます。この部分の詳細については、セクション 5.3 で説明します。



また、右上の表にあるモデルの名前から、赤いハイライトが消えている点にも注意してください（図 13 を参照）。

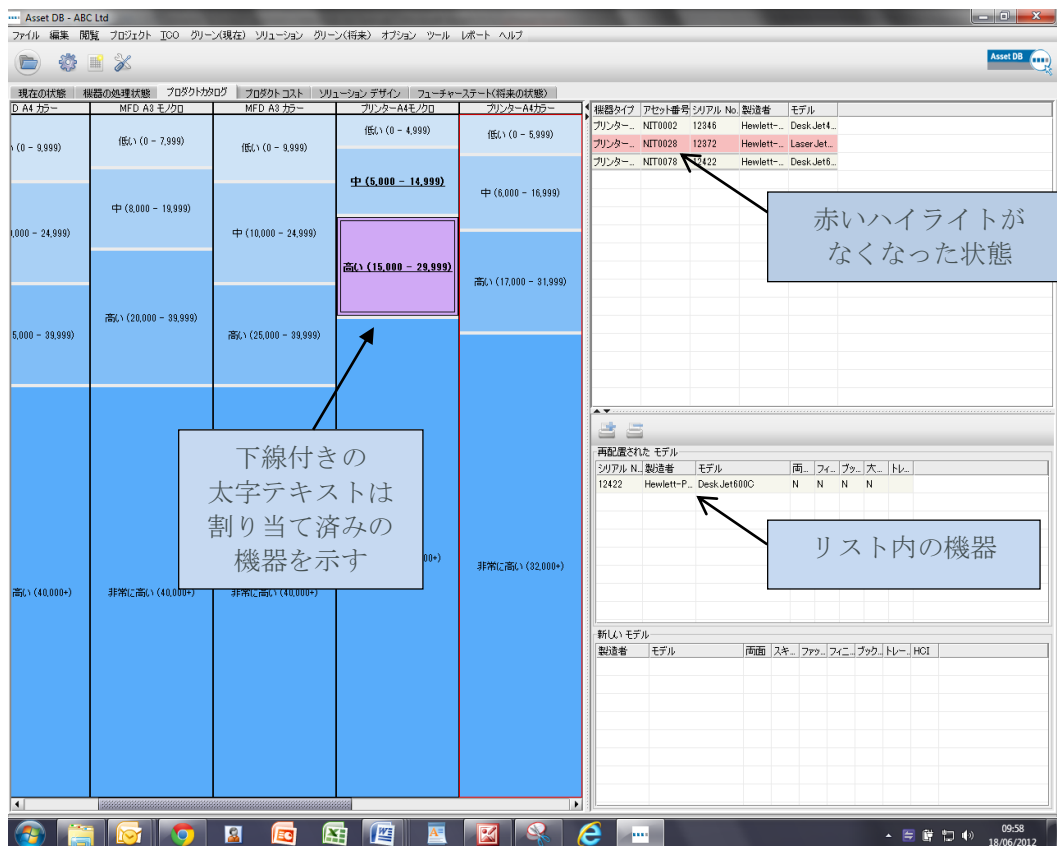


図 13. プロダクトカタログ内で再配置された機器の割り当てをビジュアルに確認

このプロセスは、右上の表に赤でハイライトされているすべてのモデルに繰り返し適用できます。モデルは必要に応じて複数のボリュームバンドにドロップすることもできます。再配置された複数の機器を 1 つのボリュームバンドに追加するには、上記の手順で **Ctrl** キーを押しながら複数の機器を選択します。

注：再配置された機器モデルをボリュームバンドから削除すると、そのモデルがプロダクトカタログの他の場所に配置されていない場合は右上の表に再び赤でハイライトされます。

5.3 再配置された機器のカタログ内での位置

カタログ内に再配置された機器の位置は、右上パネルで該当する機器をクリックすると表示されます。すると、図 14 にあるように、配置先のボリュームバンドが黄色でハイライトされます。

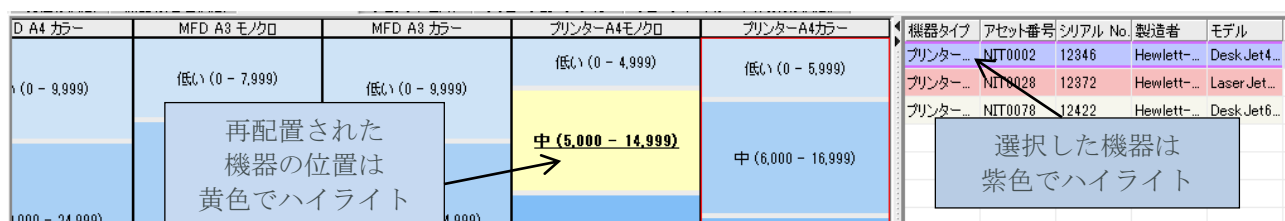


図 14. モデルマトリックス内で再配置された機器の位置をビジュアルに確認



5.4 プロダクトカタログへの新しいモデルの追加

プロダクトカタログには、再配置された機器のモデルだけでなく、あらゆるモデルを追加できます。この段階でプロダクトカタログを使用して、新しい印刷フリードで使用を検討するモデルと、プロダクトカタログのどこにモデルを設定するかを決定することができます。

モデルを任意のボリュームバンドに割り当てるには、ボリュームバンドをクリックしてハイライトし、右下パネルの [機器を追加] ボタンを選択します（図 15 を参照）。

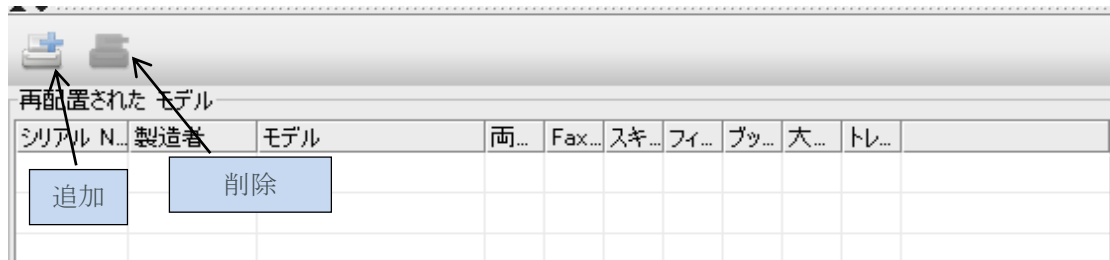


図 15. カタログへの新しいモデルの追加／削除

まず、[新しいモデル] ポップアップメニューから製造元とモデルを選択します。これにはドロップダウンリストを使うか、フィールドに入力を始めるとオプションが表示されるので、そのいずれかを選択します。次に [割り当てられた新しいモデル] をクリックする前に、図 16 にあるチェックボックスを使ってモデルに適用される機能をそれぞれ選択します。

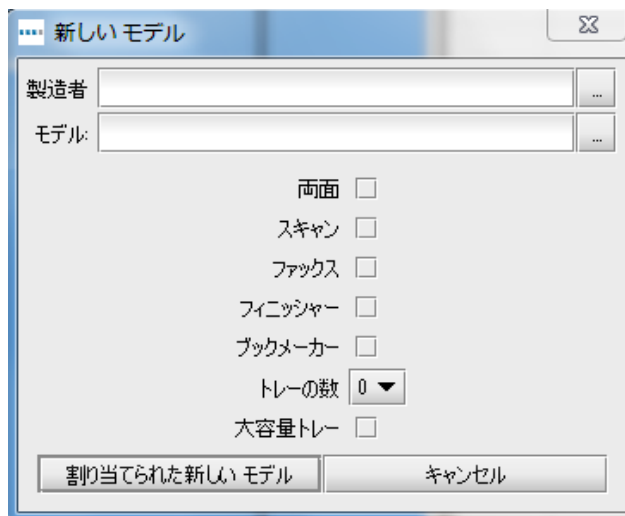


図 16. カタログへの新しいモデルの追加と削除

カテゴリ内のテキストが太字に変わり、右下のパネルに追加したモデルが [新しい機器] として表示されます。ここでは各ボリュームバンドに複数のモデルを追加して、必要なだけの機能オプションをカバーできます。また、必要に応じて同じ機器の複数のインスタンスを追加することにより、同じモデルの異なる機能オプションを有効にすることもできます（図 17 を参照）。すると、これらのモデルは [プロダクトコスト] タブにそれぞれ一意の項目として表示されます。詳細はセクション 6 を参照してください。

[illegible]

図 17. カタログに追加された複数の新しいモデル

新しいモデルと再配置された機器をボリュームバンドから削除するには、その項目を選択して「削除」ボタンをクリックします（図 15 を参照）。

この時点でプロダクトカタログに新しいモデルを追加しない場合には、**Architect** ではモデルを追加するまでの間、新しい機器に一般的な説明が適用されます。ただし、その場合はファイナンシャルおよび環境データの比較は実行できません。

5.5 新しいカタログの作成

空のプロダクトカタログを新しく作成するには、「デフォルトカタログの新規作成」ボタンをクリックします（図 18 を参照）。注：この操作では既存のマトリックスが削除され、モデルを含まない新しいブランクのカタログが作成されます。このブランクカタログに、現在のフリートに基づくモデルを作成します。

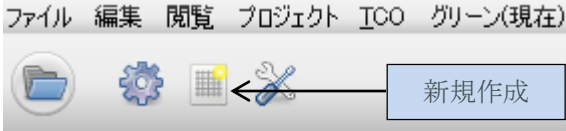


図 18. 新しいプロダクトカタログの作成



5.6 プロダクトカタログのインポートとエクスポート

プロダクトカタログは Asset DB からエクスポートしたり、エクスポートしたファイルをさらに他のソリューションにインポートすることができます。したがって、デフォルトのプロダクトカタログを作成してエクスポートしてから、各ソリューション用にインポートしてカスタマイズすることが可能です。エクスポートしたカタログには【プロダクトコスト】タブに入力されたすべてのコストも含まれます（詳細はセクション 6 を参照してください）。カタログをエクスポートするには、【ソリューション】>【エクスポートする】>【製品カタログ】メニューオプションを使用します（図 19 参照）。

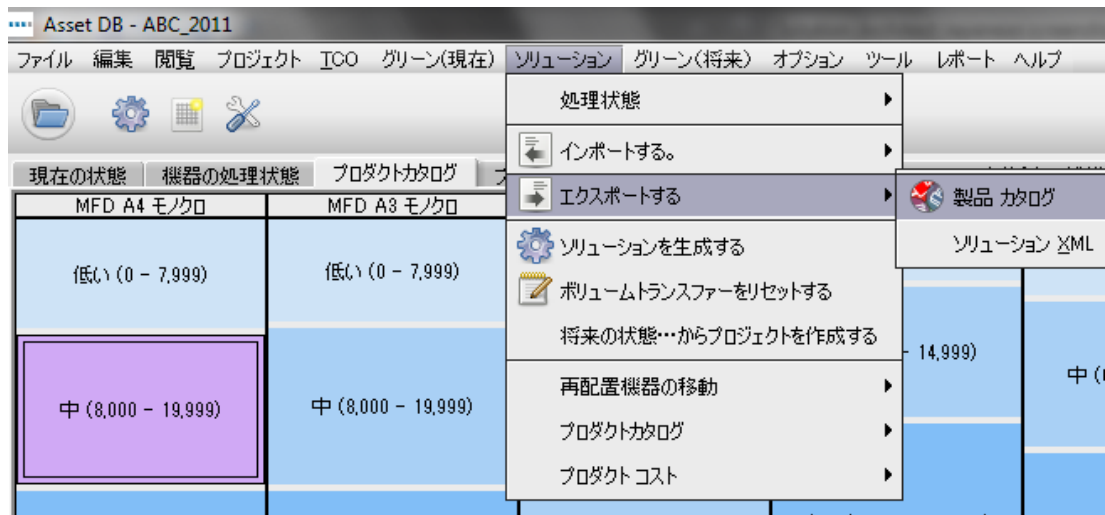


図 19. プロダクトカタログのエクスポートとインポート

プロダクトカタログをインポートするには、【ソリューション】>【インポートする】>【製品カタログ】メニューオプションを選択し、目的のカタログ (.atp) ファイルを見つけます。カタログのインポートでは、そこに配置されているすべてのモデルも同時にインポートされます。

注：インポートされたカタログは既存のカタログを上書きします。したがって、インポートの前にそのボリュームバンドに割り当てられていた再配置済みのすべての機器を、それぞれ対応するボリュームバンドにもう一度割り当て直す必要があります。

6 【プロダクトコスト】タブ

【プロダクトコスト】タブでは、将来のフリートモデルにコストデータを割り当てることができます。このモデルはその後、新しい印刷環境に関連するコストを決定するために使用されます。



Asset DB - ABC_2011

ファイル 編集 閲覧 プロジェクト IOO グリーン(現在) ソリューション グリーン(将来) オプション ツール レポート ヘルプ

Asset DB

現在の状態

機器の処理状態

プロダクトカタログ

プロダクトコスト

ソリューションデザイン

フューチャーステート(将来の状態)

シリアル 番号	製造者	モデル	両面	スキャン	ファックス	フィニッシャー	ブックメーカー	トレイの数	HCI	リースコスト	リースコスト期	経常費	経常費
CNCFB16437	Dell	M5200n	N	N	N	N	N		1 N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16461	Dell	M5200n	N	N	N	N	N		1 N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16453	Dell	M5200n	N	N	N	N	N		1 N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16458	Dell	M5200n	N	N	N	N	N		1 N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16459	Dell	M5200n	N	N	N	N	N		1 N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16457	Dell	M5200n	N	N	N	N	N		1 N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16455	Dell	M5200n	N	N	N	N	N		1 N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16467	Hewlett-Pac...	ColorLaserJ...	N	N	N	N	N		2 N	€0.00	月間	€0.00	月間
DRB131656	Xerox	CopyCentre...	Y	N	N	N	N		4 N	€0.00	月間	€0.00	月間

ABC_2011

Site 1

London

ファイナンスシリアル

ユーザー/機器比率

ソリューション 生成を起動させ、ファイナンスシリアルデータを生成するための完全なソリューションとする。

図 20. [プロダクトコスト]表示

6.1 コストデータの入力

[プロダクトコスト]タブには、プロダクトカタログに追加されたすべての個別の新しいモデルとその機能が一覧されます。前述のようにプロダクトカタログに同じモデルの複数のインスタンスを追加した場合には、各インスタンスが別々の行として表示され、各行ごとに異なる機能が指定されています。また、既存のフリートからの再配置される機器と配置済みの機器が、それぞれシリアル番号とともに表示されます。

1つまたは複数の行にデータを入力するには、行を選択してから右クリックメニューのオプションを使用するか、ツールバーの「編集」ボタンを使用します。1つの値を編集する場合はその値をクリックすることもできます。図 21 を参照してください。

Asset DB - ABC_2011

ファイル 編集 閲覧 プロジェクト IOO グリーン(現在) シュエーション グリーン(将来) オプション ツール レポート ヘルプ

現在の状態 機器の処理状態 プロダクトカタログ プロダクトコスト シュエーションデザイン フューチャーステート(将来の状態)

シリアル	番号	製造者	モデル	商品	スキャン	ファクトス	フィニッシャー	ブラックメーカ	トレーの数	HCI	リースコスト	リースコスト期	経常費	経常費
CNCFB16437		Dell	M5200n	N	N	N	N	N	1	N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16461		Dell	M5200n	N	N	N	N	N	1	N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16453		Dell	M5200n	N	N	N	N	N	1	N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16458		Dell	M5200n	N	N	N	N	N	1	N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16459		Dell	M5200n	N	N	N	N	N	1	N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16457		Dell	M5200n	N	N	N	N	N	1	N	€0.00	月間	€0.00	月間
CNCFB16455		Dell	M5200n	N	N	N	N	N	1	N	€0.00	月間	€0.00	月間

ABC_2011
Site 1
London

「編集」ボタン

右クリックメニュー

編集する値を1つ選択

図 21. コストデータの編集



以下に編集可能な各データ項目について説明します。

- リースコスト：機器のリースコスト
- リースコスト期間：リースコストの適用期間
- 経常費：その他の経常費（保守料金など）
- 経常費期間：経常費の適用期間
- モノクロ CPP：モノクロ 1 ページあたりの印刷コスト
- カラー CPP：カラー 1 ページあたりの印刷コスト

6.2 プロダクトコストデータのインポートとエクスポート

新しいプロダクトカタログを作成したり、プロダクトコストがまったく指定されていないプロダクトカタログをインポートする場合、これらのコストをプロダクトカタログとは別にエクスポート、編集、インポートすることができます。これには、[ソリューション]>[プロダクトコスト]>[エクスポートする]メニューオプションを選択します。すると .csv ファイルが作成され、このファイルにリースコスト、クリックコスト、その他の経常費および請求期間（月間、四半期、年間）を追加できます。 .csv ファイルにデータを入力したら、その後 [ソリューション]>[プロダクトコスト]>[インポートする]メニューオプションを使用して [プロダクトコスト] タブに再インポートします。プロダクトカタログに入力済みのコストもすべて .csv ファイルに含まれており、これと同じ方法で編集することができます。

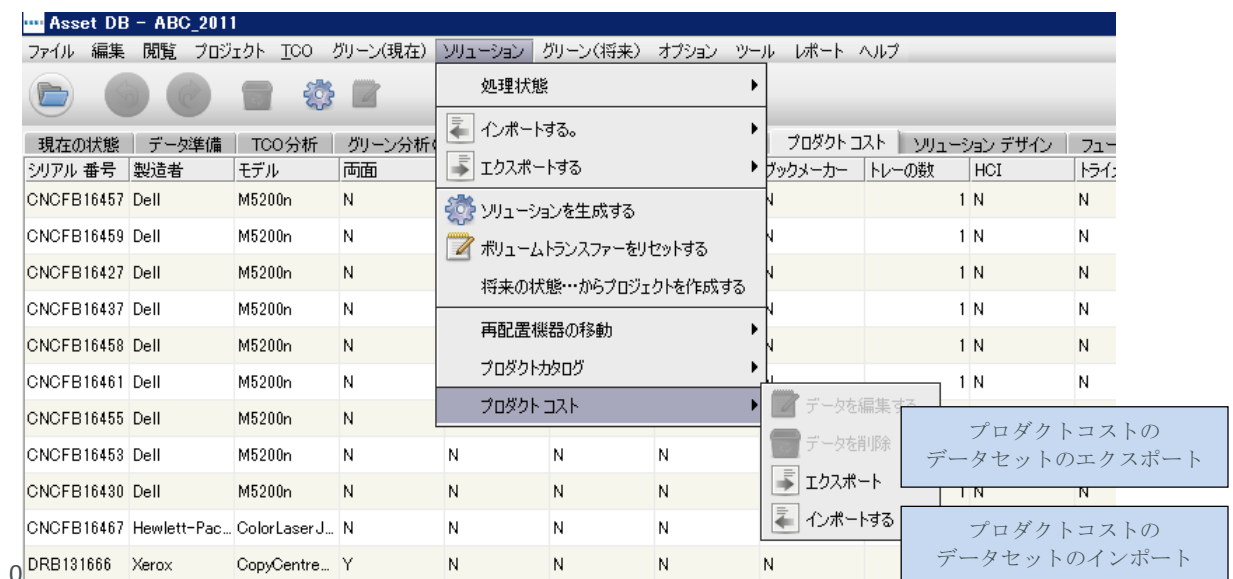


図 22. プロダクトコストのインポートとエクスポート

7 [ソリューションデザイン] タブ

[ソリューションデザイン] 表示は、新しい仮想印刷環境を設計するためのデザインスタジオです。この表示には既存の印刷フリートが表示され、各アイコンにボリューム情報が示されています。その下には機器の印刷ボリュームが表示されます。モノクロのボリュームは黒、カラーのボリュームがある場合は赤で表示されます。スキャンのボリュームはその上に紫色で表示されます。また、各アイコンには [機器の処理状態] タブで指定された処理状態を示すアイコンも付いています。



一部の機器はフロアプラン上で空の円または四角として表示されます。これらの機器にはボリュームデータが関連付けられていません。作業を続行する前に、ボリュームがゼロになっている理由を確認してください。また、フロア上にゴミ箱のアイコンがあります。これは初期設定では左上の隅に表示されます。これはボリュームゴミ箱です。詳細についてはセクション 7.6 を参照してください。

最後に、画面の一番下にある表の部分には、現在のすべての機器の詳細が表示されます。この表には [現在の状態] 表示にあるフィールドに加えて、ソリューションデザインのプロセスを支援する次のような追加のフィールドも含まれています。

- **物理的／仮想**：機器が物理的なもの（つまり現在の状態の機器）とフューチャーステートの機器（つまり仮想機器）のどちらであることを示します（詳しくはセクション 7.1 で説明します）。
- **ステータス**：この列は OK またはエラーのどちらかを示します。エラーの場合、ソリューションの実行を妨げる問題が発生しているので、修正する必要があります。これについてはセクション 7.11 で説明します。
- **処理状態**：ソリューションに含まれるすべての機器について、その処理状態（[機器の処理状態] タブで選択されたもの）を示すシンボルが表示されます。
- **ソリューションに含まれる**：これはアセットをソリューションデザインプロセスに含めるかどうかを示します。含めるアセットは、スコープ内のすべてのプリンター、MFP、スキャナー、およびファックスです。スコープ外の機器、および PC や書類キャビネットなどの非印刷機器は含まれません。

注：[ソリューションデザイン] 表示で既存の印刷フリースの機器を移動したり修正することはできません。

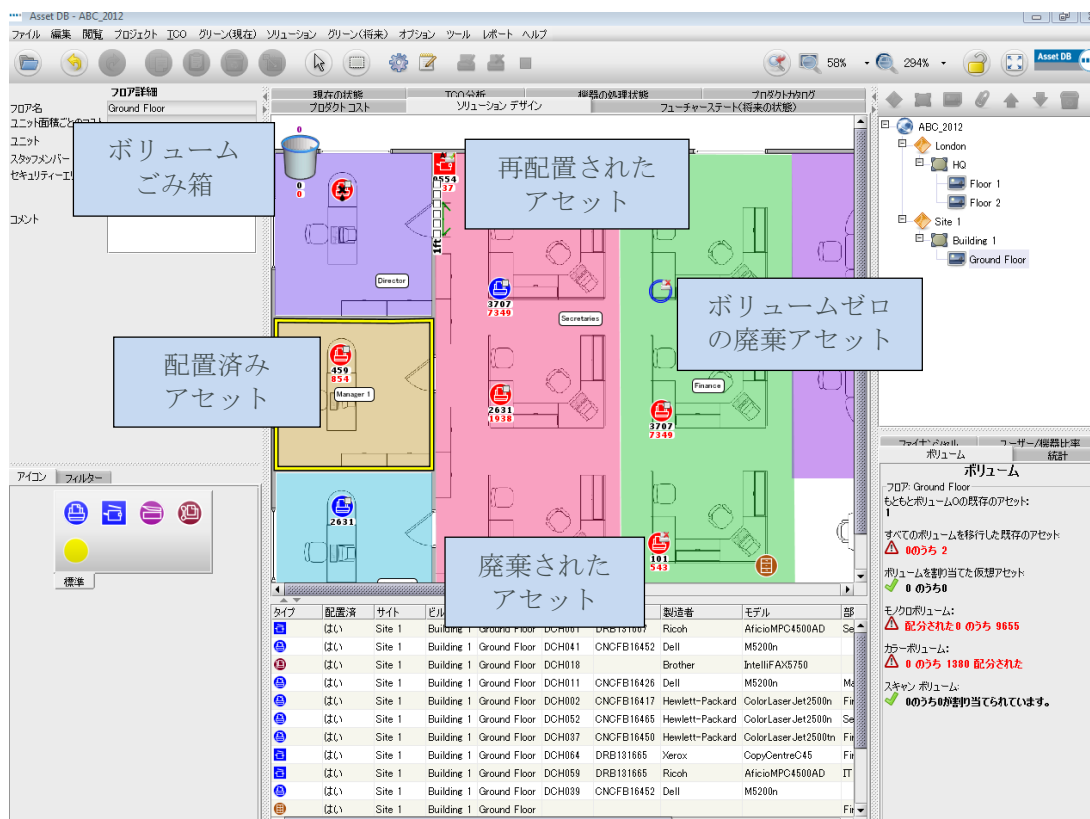


図 23. [ソリューションデザイン] 表示



7.1 フロアへの仮想機器の追加

左下のパネルにある [アイコン] タブを使用して新しい仮想機器をフロアに設置し、将来の状態のフリートを作成できます。機器は [現在の状態] タブと同じ方法でフロアに設置できます（Asset DB マニュアルを参照してください）。機器がフロアに設置されると、これが仮想機器であることを示す金色の星印でマークされます。また、表の [物理的/仮想] 列に「仮想」と表示されます。この時点では仮想機器に属性はありません。属性は既存の印刷フリートの周辺の機器からドラッグして指定します。

仮想機器を設置した後、任意の既存の機器をクリックしてマウスをドラッグすると、カーソルが紙の束に変わり、この印刷ボリュームが機器からドラッグされていることを示します。印刷ボリュームを仮想機器に移管（トランスファー）するには、マウスボタンを仮想機器の上で放します。するとボリュームと機能の移管のオプションを示すダイアログが表示されます。この仮想機器に機能を移管したり追加するには、該当するチェックボックスをオンまたはオフにします。

ボリュームを移管するには、事前設定されている移管パーセンテージのいずれかを選択するか、スライダーを使用するか、またはボリューム値のフィールドに正確な移管量を手動で入力します。ボリューム値の下には、移管されるパーセンテージが表示されます（図 24）。

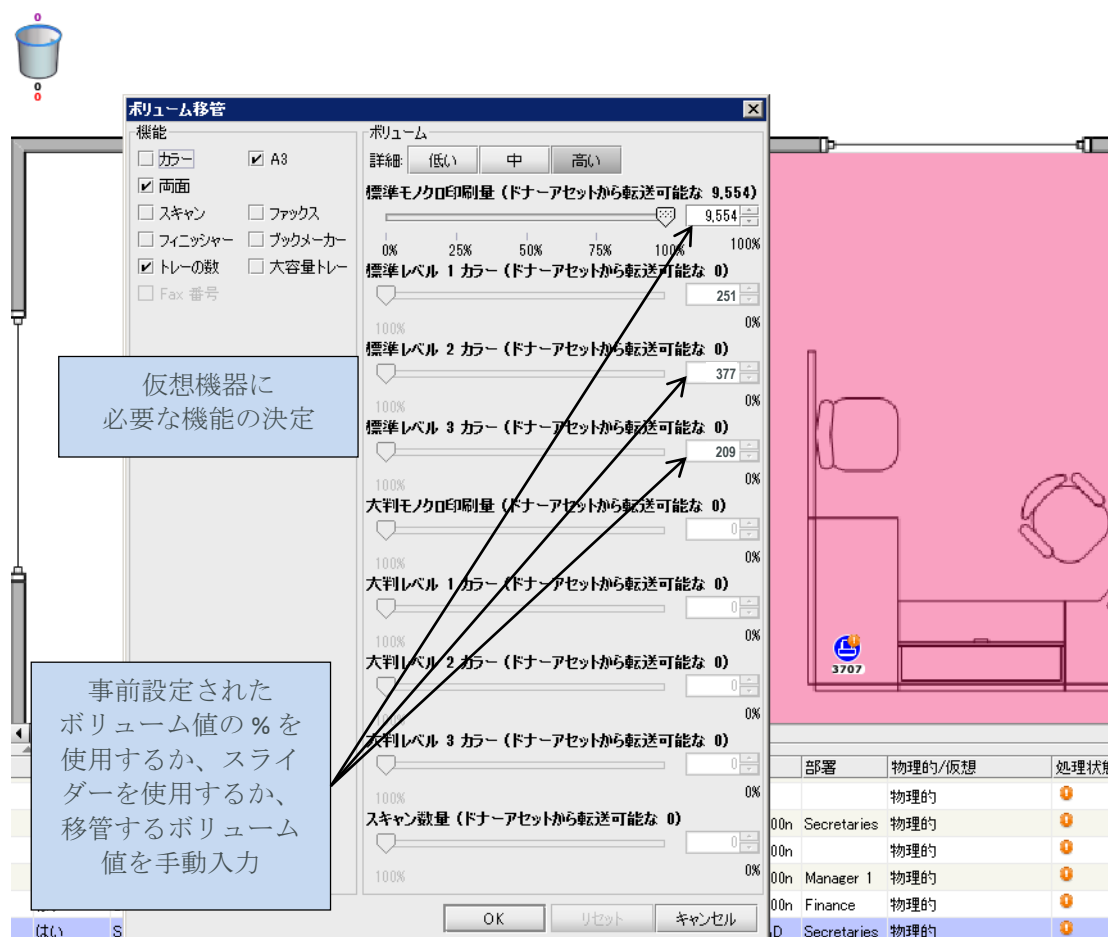


図 24. [ボリューム移管] ダイアログ



仮想トライカラーメーター機器にボリュームを移管する場合、ウィンドウの[ボリューム]セクションの上部にある適切なボタンをクリックして中または高のボリュームレベルタブに移動する必要があります。これらのタブではボタンが3つのカテゴリーに分かれていて、各カテゴリーから移管するボリュームのパーセンテージを指定する必要があります。移管が完了すると、Asset DBによってボリュームがそれぞれ対応するカテゴリーに配分されます。

トライカラーメーター機器からシングルカラーのメーター仮想機器にボリュームを移管する場合、低ボリュームのボタンを選択します。するとモノクロとカラーのボリュームが全体として考慮されます。

図 25 に、各詳細レベルのボリューム移管ウィンドウを示します。

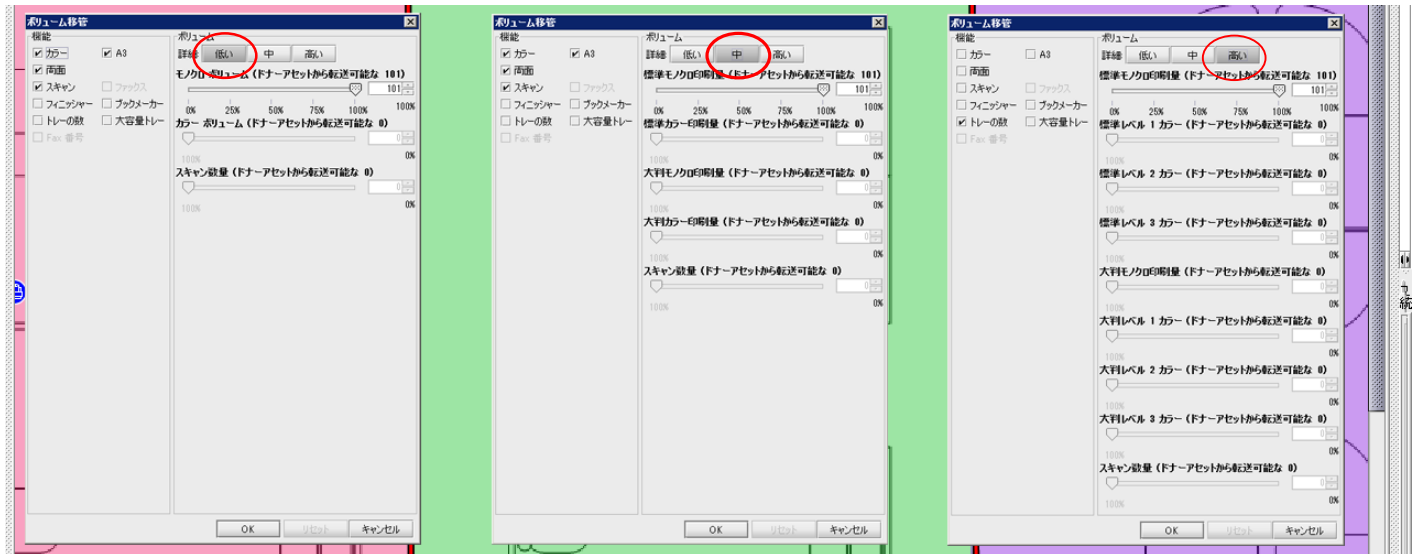


図 25. ボリューム移管の詳細

ボリュームが既存の機器から仮想機器に移管されると、そのボリュームパスが図 26 にあるようにオレンジ色の矢印で表示されます。ボリューム移管のリンクは[フィルター]タブで有効にしたり無効にできます（セクション 7.16 を参照）。



図 26. ボリューム移管のリンク

特定の機器からすべてのボリュームが移管されると、その機器は空の円または四角として表示されます（図 26 参照）。この機能によって、ユーザーはまだ移管が済んでいない既存の機器を一目で確認できます。

既存の印刷機器から新しい仮想機器にボリュームと属性をドラッグする作業は、Architect デザインプロセスの中心をなす機能です。新しい仮想印刷環境を作成するには、仮想機器をフロアに追加し、ボリュームと属性を既存の印刷フリートから仮想機器にドラッグします。この方法による仮想環境デザインを奨励することにより、Architect では既存フリートの印刷ボリュームと属性を最低限維持できるような環境が保証されます。



7.2 仮想アセットアイコンのタイプの変更

ソリューションデザインの中中は仮想アセットアイコンのタイプをいつでも変更できます（たとえば MFD からプリンターに変更可能です）。これには、現在の状態の場合と同じく機器を右クリックして [アイコン] の変更を選択します。ポップアップが表示され、現在のアイコンと置き換えるソリューションアイコンを選択できます。

7.3 仮想機器からのボリューム移管

場合によってはボリュームと属性を仮想機器から他の仮想機器に移管したり、既存のフリート機器に戻す必要があります。仮想機器から移管するには、**SHIFT** キーを押しながらマウスを機器からドラッグします。**SHIFT** キーを押さずにドラッグすると、ボリュームが移管される代わりにアセットが移動されてしまいます。ボリュームを既存の機器に戻す場合、移管できる最大値は既存の機器から仮想機器に移管された量と等しくなります。

7.4 複数機器からのボリューム移管

ボリュームを複数の機器から移管するには、次の 2 つの方法があります。

CTRL キーを押しながら、既存の機器を 1 つずつクリックします。すべての機器を選択したら、そのいずれかの機器から仮想機器にマウスをドラッグして移管を実行できます。

[複数選択] ボタンを使用して既存の機器を選択し、選択した機器のいずれかからマウスをドラッグしてボリュームを移管します。



図 27. 複数アセットからのボリューム移管

このオプションで誤って仮想機器も選択してしまうと、移管を実行できません。この問題を回避するには **CRTL** キーを押しながら仮想機器をクリックして、仮想機器の選択を解除します。

7.5 ボリューム移管を元に戻す

ボリュームを元の機器に手動でドラッグすると、ボリューム移管を元に戻すことができます。ボリュームを戻す場所を判断するには、ボリューム移管のリンクを参考にします。ただし Architect には、これよりスマートな方法が 2 つ用意されています。まず最初は「元に戻す」ボタンを使用する方法です。

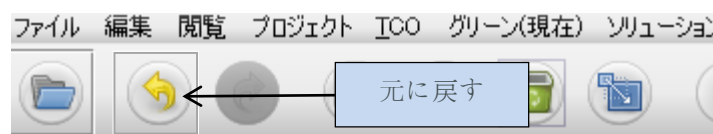


図 28. 「元に戻す」ボタン



ボリュームを移管した後でこのボタンをクリックすると、移管を元に戻せます。元に戻す操作は各ボリューム移管ごとに適用されるため、初期状態に戻すにはボタンを何度かクリックする必要があります。注：元に戻すボタンとやり直すボタンはボリュームの移管だけでなく、Architect の他の多くの操作にも使用できます。元に戻す／やり直すボタンの対象となる操作を確認するには、マウスをボタンに合わせて操作を説明するツールヒントを表示します。

ボリューム移管を元に戻すさらに強力な 2 番目の方法として「ボリューム移管をリセットする」ボタンがあります。

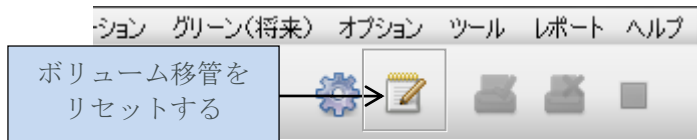


図 29. ボリュームをリセットするボタン

このボタンはプロジェクト全体のすべてのボリューム移管をリセットします。この機能を使用した後で元に戻すボタンを押すと、リセット操作が元に戻り、プロジェクトをボリュームがリセットされる前の状態に戻せます。

7.6 ボリュームごみ箱

ボリュームごみ箱には 3 つの使い方があります。まず、ボリュームが移管された先の仮想アセットが削除された場合にそのボリュームを取り込む、第 2 は、ボリュームが最終目的地に移管されるまでの臨時保存ストアとして使用する、そして第 3 に、新しい印刷ルールに合わせてフロア上のボリュームを削減するためにも使用できます。

仮想アセットを削除すると、そのアセットに割り当てられていたすべてのボリュームが自動的にボリュームごみ箱に移管されます。これは環境内のボリューム合計を保つために必要な処理です。この移管が行われないと、削除したアセットのボリュームは新しい仮想環境の中で失われてしまいます。

ボリュームは、仮想アセットと同じように保存やボリューム削減の目的でボリュームごみ箱にドラッグすることができます。また、ボリュームを仮想機器と同様の手順でボリュームごみ箱から（SHIFT キーを押しながら）ドラッグできます。

7.7 無効なボリューム移管

Architect ではすべてのボリューム移管が有効というわけではありません。次のようなボリューム移管は行えません。

- 既存の機器間の移管（配置済み機器への移管を含む）、または
- 仮想機器から、その仮想機器のボリュームの移管元ではない既存機器への移管。ボリュームは別の既存機器に移管するのではなく、移管元に「戻す」ことのみが可能です。



7.8 既存アセットの処理状態の変更

前述したように、[ソリューションデザイン]タブでは既存アセットの処理状態を変更できます。

処理状態を設定するには、既存の機器を右クリックして [処理状態] メニューから適切なオプションを選択します。

あるいは、Asset DB ツールバーにある機器の処理状態ボタンを使用する方法もあります (図 6)。



図 30. [ソリューションデザイン]表示で行う既存アセットの処理状態の変更

7.9 ボリューム移管の統計

既存の印刷フリートから新しい仮想フリートへのボリューム移管の状態は、右下のパネルの [ボリューム] タブに表示されます。

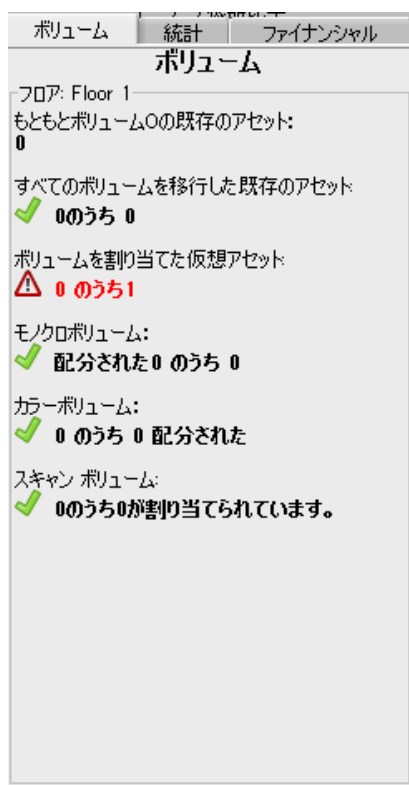


図 31. ボリューム移管の統計



統計は、右上のパネルのナビゲーションツリーで選択されたオブジェクト（サイト、ビル、フロア）に関連するデータか、フロアで選択された部署に関するデータが表示されます。

- **もともとボリューム0の既存のアセット**：既存のフリート内でボリュームデータがない機器の台数。ボリューム生成でエラーが発生する可能性もあるため、これは確認が必要です。
- **すべてのボリュームを移行した既存のアセット**：すべてのボリュームが新しい仮想環境に移管された、既存のフリート内の機器台数。すべての仮想アセットにボリュームを割り当てる必要があります。
- **ボリュームを割り当てた仮想アセット**：何らかのボリュームが移管済みの仮想機器の台数。
- **モノクロボリューム**：既存のフリートから仮想環境に移管されたモノクロボリュームの量。
- **カラーボリューム**：既存のフリートから仮想環境に移管されたカラーボリュームの量。
- **スキャンボリューム**：既存のフリートから仮想環境に移管されたスキャンボリュームの量。

各統計は自動的に更新されます。

すべての数値に緑色のチェックマークが表示されたら、ソリューションを生成する準備が整ったことを示します。

7.10 ソリューションの生成

ここまでの操作で作成した新しい印刷環境はあくまでも仮想の環境に過ぎません。任意の機器を選択すると、そのパネルの左上の属性には汎用の説明が表示されます。

Architect には仮想環境を現実の環境に移行する自動機能が用意されています。これにはツールバーにある [ソリューションジェネレーターを起動] からアクセスします（図 32 参照）。

このソリューション生成機能は、将来のフリートにある各仮想機器のボリュームと属性を確認し、プロダクトカタログ内のモデルにマッチさせます。

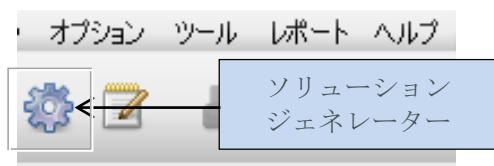


図 32. 「ソリューションジェネレーター」ボタン



ソリューションジェネレーターを実行すると、Architect はまず可能な限り多くの再配置された機器を既存のフリートから仮想環境に設置しようとします。プロダクトカタログに適切に設置されていて仮想機器の必要事項を満たす場合のみ、再配置された機器が仮想機器にマッピングされます。合致する機器が複数ある場合、Architect は仮想機器から最短距離に設置された機器を選択します。したがって、このマッピング処理では、再配置された機器を類似機能のある仮想機器にインテリジェントに合致させながら、再配置されたフリートの物理的な移動を最小限に抑えます。

Asset DB がすべての再配置された機器をマッピングした後でも、機器がマッピングされていない仮想機器が残っている可能性もあります。Architect では、そのようなすべての機器について、使用可能な適切な新しいモデルをプロダクトカタログで検索してモデルを割り当てます。ここでも印刷ボリュームと機能を合致させて適性が判断されます。したがって、プロダクトカタログ内の各機器の機能を的確に選択することが特に重要となります。

ボリューム生成の終了後、任意の機器を選択すると、左上のパネルの属性に実際のメーカーとモデルの詳細が設定されているのがわかります。この詳細は表の表示にも含まれています。

再配置された機器の移動

再配置された機器の位置を決める際、デフォルトでは Asset DB がプロジェクト全体を検索して適切な位置を判断するよう設定されています。

この移動範囲をサイト、ビル、またはフロアのレベルに限定することも可能です。すると、再配置された機器は現存する敷地、建物、または階の範囲内でのみ移動されるようになります。これには、[ソリューション]>[再配置機器の移動]を選択し、制限するレベルを選択します（図 33 参照）。

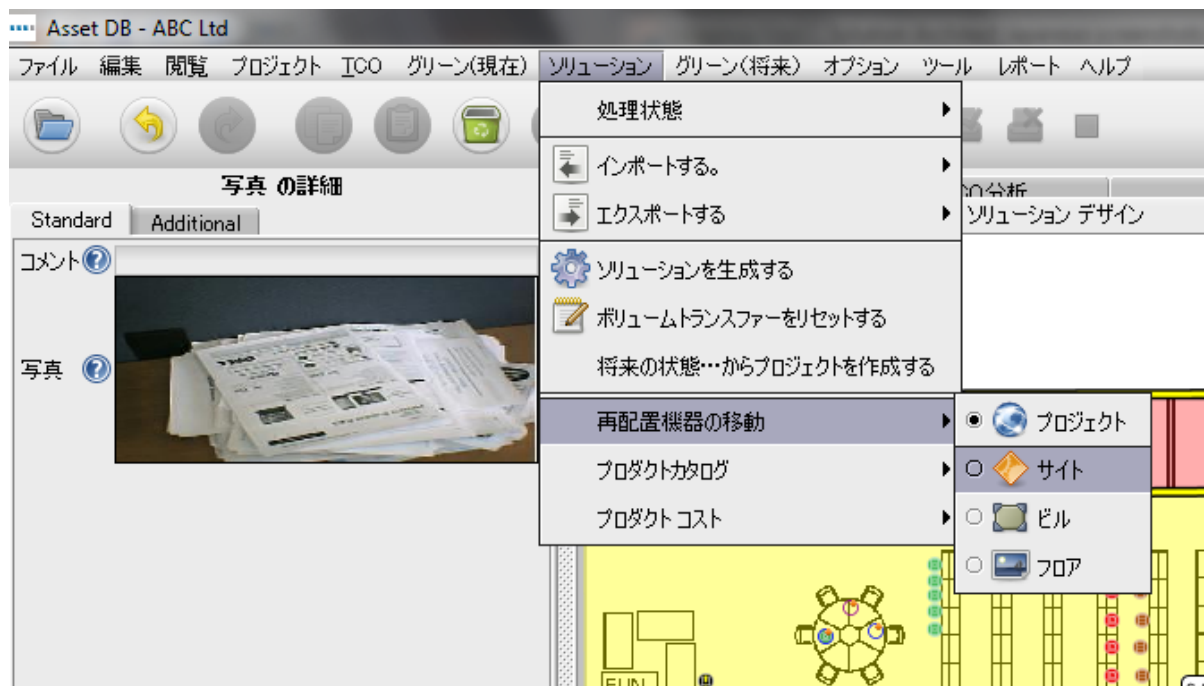


図 33. 再配置された機器の移動範囲の制限



7.11 ソリューション生成エラー

既存の印刷フリートから再配置された機器のすべてが新しい仮想環境で利用されるとは限りません。また、仮想機器に割り当てる適切なモデルが見つからない場合もあります。その場合、[ソリューションジェネレーターを起動] ボタンをクリックすると、結果のダイアログにその旨を示すメッセージが表示されます（図 34 を参照）。その場合は、ソリューションを訂正して完全なソリューションを生成する必要があります。

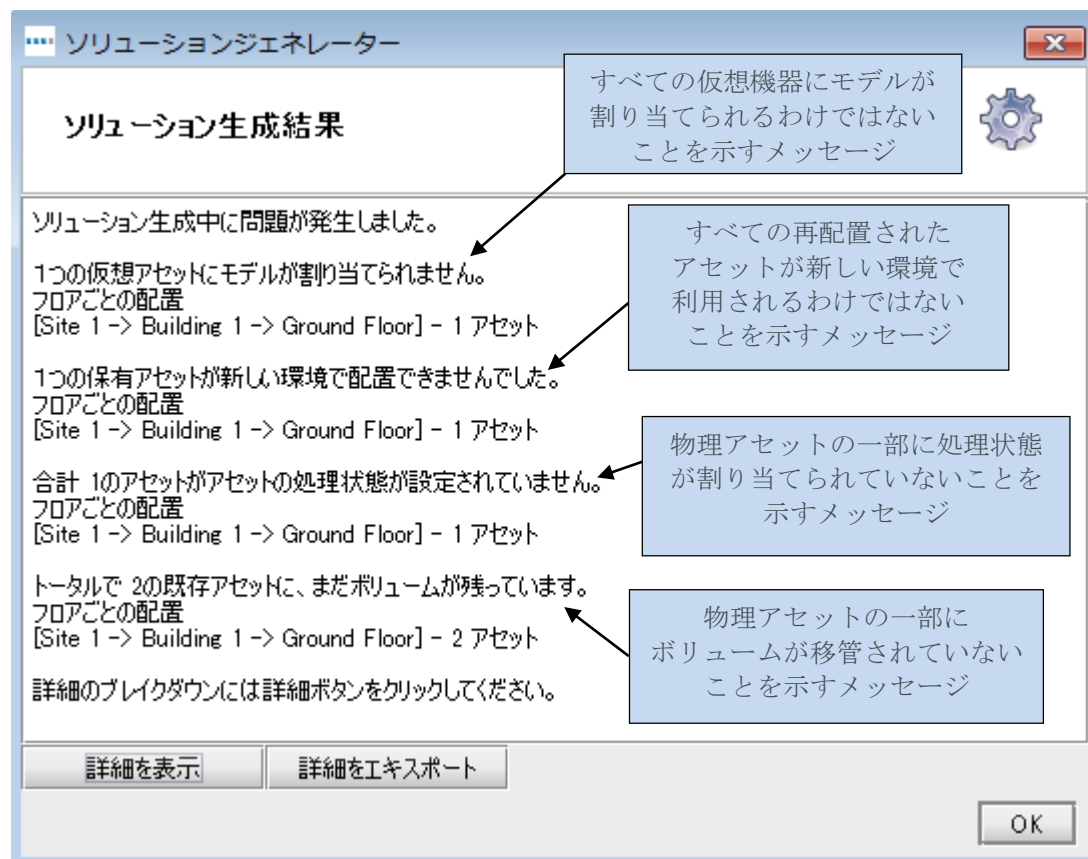


図 34. ソリューションジェネレーターのポップアップダイアログ

[詳細を表示] ボタンをクリックすると、そのようなエラーが発生している特定機器の詳細を示す情報が表示されます。

ソリューションジェネレーターのエラーは表の表示にも報告されます。ステータス列に、エラーのないアセットは [OK]、完全なソリューションを生成する前に訂正が必要なアセットは [エラー] として表示されます。

表で「エラー」となっている行にカーソルを合わせると、そのエラーに関する詳細を示すツールヒントが表示されます。また図 35 にあるように、フロア上の機器がハイライトされ、追加のツールヒントも表示されます。この情報から、完全なソリューションを作成するために訂正が必要な機器を特定することができます。

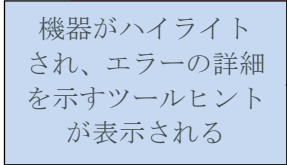


図 35. 表の表示のエラーとツールヒント

7.12 アセットステータスラベル

再配置される機器の既存のフリートでのステータスと、仮想機器の新しい環境での状態を、アセットステータスラベルから判断できます。

ソリューションジェネレーターを実行すると、図 36 のように、[ソリューションデザイン] タブ内の各機器のアイコンは自動的に赤の X または緑のチェックを機器の隣に表示してステータスを示します。

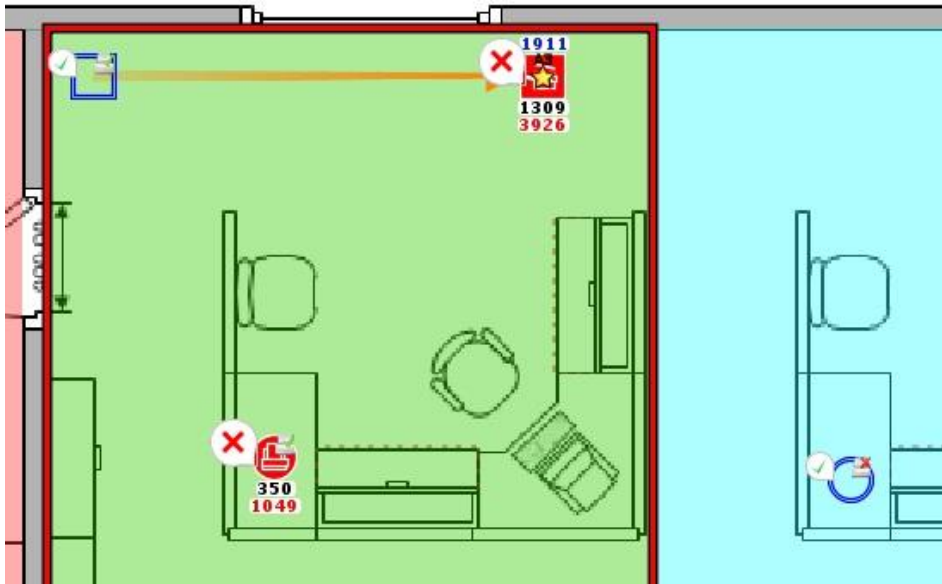


図 36. ソリューションデザイン作業中の機器ステータス



各マークの意味は、次のようにアセットタイプによって異なります。

既存の再配置されたアセット:

- **赤いX**: 機器を仮想機器にマッピングできません。
- **緑のチェック**: 再配置されたアセットを仮想機器にマッピングできます。

既存の廃棄されたアセット:

- **赤いX**: 仮想機器に移管されていないボリュームがアセットにあります。
- **緑のチェック**: すべてのボリュームが仮想機器に移管されました。

配置済みの機器の場合、エラーが発生することはないため赤いXは表示されず、すべて緑のチェックが表示されます。

仮想アセット:

- **赤いX**: 割り当て可能な既存アセットまたは新しいモデルがありません。
- **緑のチェック**: 既存アセットまたは新しいモデルを割り当てることができます。

赤いXが表示されても問題があるとは限りません。仮想機器が抽象的なものであり、汎用の説明が使用されたソリューションを生成するのが妥当なケースもあります。同様に、再配置されたアセットを新しい環境内に配置できず、スペアや置換のために保管しておく場合などもあります。

このラベルのオンとオフを切り替えるには、コンソール左下の [フィルター] タブを選択し、[アセットステータスラベル] チェックボックスをオンまたはオフにします。

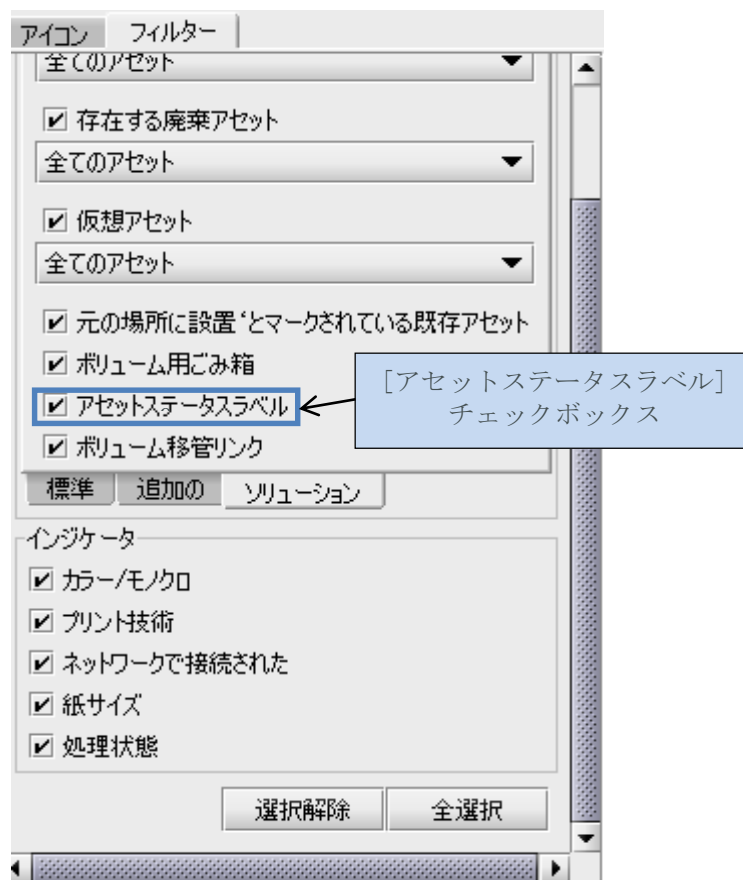


図 37. ツールコンソール内の [フィルター] タブ



7.13 Architect の決定事項のオーバーライド

場合によってはソリューションジェネレーターのような自動機能では対処できない外的要因のため、ユーザーによる手動操作が必要となることもあります。その際は、ソリューションジェネレーターの結果をオーバーライドして手作業を行うことが可能です。

7.14 仮想機器へのメーカーとモデルの手動による割り当て

仮想アセットを手動で制御するには、アセットを右クリックして [マニュアル変更のみ] オプションを選択します。

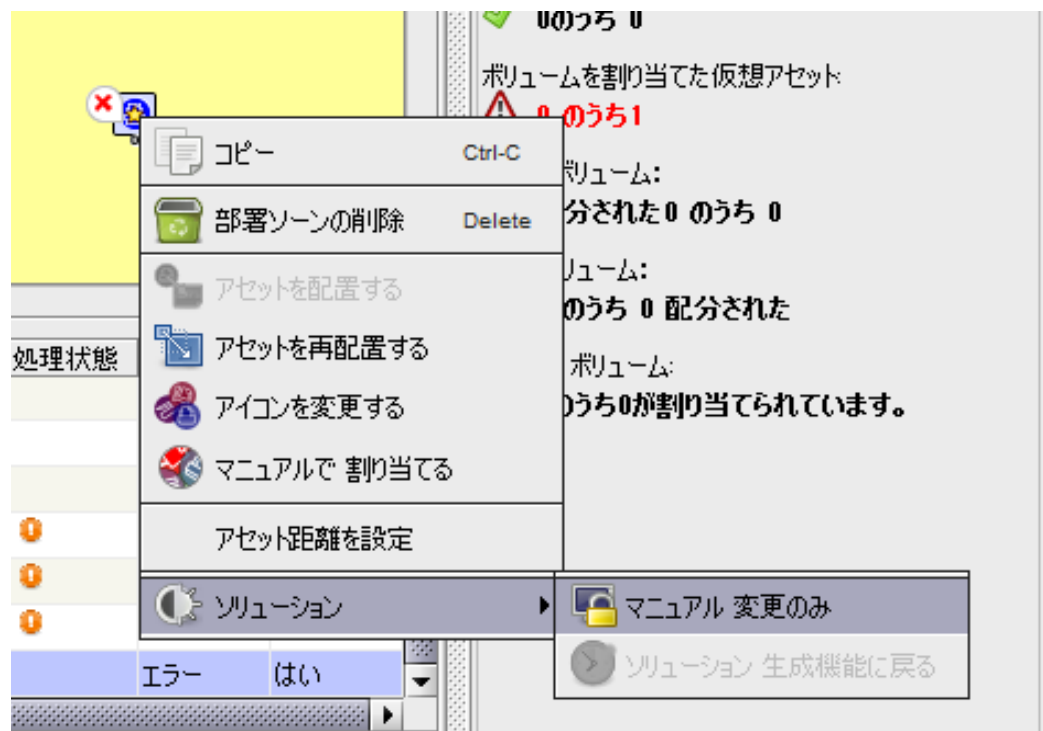


図 38. 仮想アセットの手動制御

アセットの金色の星印が白に変わり、ソリューションジェネレーター機能によってアセットが変更されないことを示します。これでアセットの制御権がユーザーに移行し、プロダクトカタログから機器を選択してメーカーとモデルを変更できるようになります。

これを行うには、機器をもう一度右クリックして [マニュアルで割り当てる] を選択します (図 38 を参照)。するとプロダクトカタログのすべての機器が表示されたポップアップが開きます。図 39 にあるように、スクロールして正しいモデルタイプを見つけ、関連するボリュームバンドを展開表示し、必要なモデルを選択して、機器を選択します。プロダクトカタログで目的の機器が選択肢として表示されない場合、[プロダクトカタログ] タブに戻ってその機器を追加してください。新しく追加された機器には、プロダクトコストでコスト情報も追加する必要があります。Asset DB 機器データベースにあるすべての機器を、手動で仮想機器に割り当てることが可能です。その場合も上記の手順を行う必要があります。



図 39. メーカーとモデルの手動選択

注：このプロセスは再配置された機器ではなく、新しい機器の割り当てにのみ使用できます。再配置された機器を手動で割り当てる方法は、この後のセクション 7.15 を参照してください。

7.15 再配置されたアセットの手動マッピング

再配置されたアセットを手動で仮想機器にマッピングすることも可能です。これには、**SHIFT** キーを押しながら、再配置されたアセットからドラッグを開始します。マウスのカーソルが変わり、アセットのマッピング操作が開始されたことがわかります。



図 40. 手作業によるアセット移行の開始

ここで **SHIFT** キーを押さずにドラッグすると、カーソルは標準の紙のアイコンのままになり、アセットの移行ではなく、ボリュームの移管が開始されたことを示します。

同タイプの機器（プリンター、MFD など）であれば、任意の仮想機器にアセットをドロップできます。アセットをドロップすると青い線が表示され、再配置された機器と仮想アセットがマッピングされたことを示します。仮想アセットは金色ではなく白い星印で表示されます。また、再配置されたアセットの属性（カラーと A3 の印刷機能など）も表示されます。

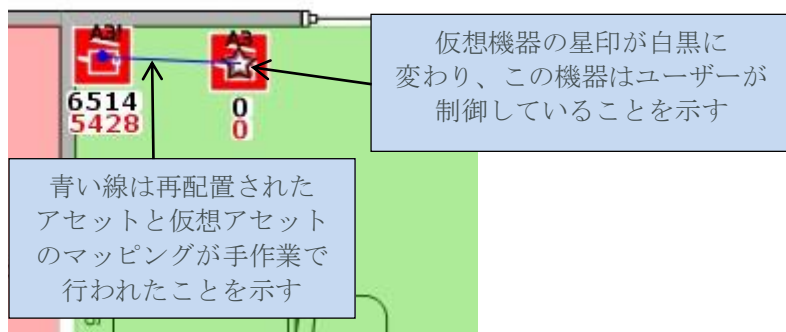


図 41. 手動でマッピングされたアセット

ユーザーが制御するアセットはソリューションジェネレーターによって無視されます。このジェネレーターを実行すると、ユーザーが制御しているアセットの詳細は無視され、ユーザーが手動でマッピングし再配置したアセットは再マッピングされません。

手動によるマッピングは、仮想機器を右クリックして[ソリューション生成機能に戻る]オプションを選択すると、いつでも解除できます。

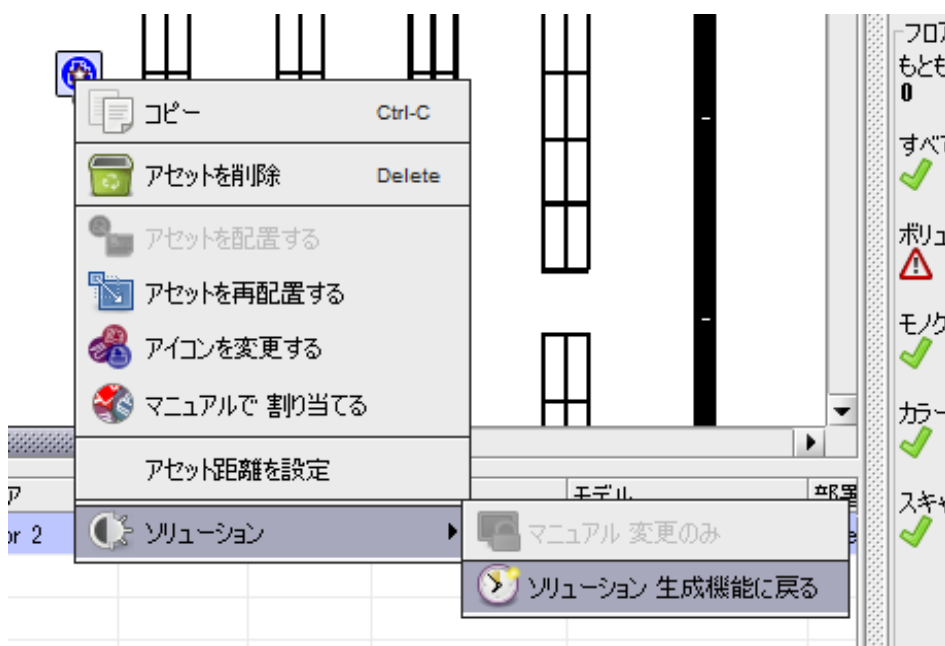


図 42. 仮想機器の制御をソリューションジェネレーターに戻す

仮想アセットは再びソリューションジェネレーターによって制御され、白い星印が金色に戻ります。

注：再配置されたアセットは1つの仮想アセットにのみマッピングできます。再配置されたアセットが手動で仮想アセットにマッピングされた場合（青色の線で表示）、そこから別のアセット移行を開始することはできません。

また、ユーザーが手動でマッピングして再配置したアセットは、その制御をソリューションジェネレーターに戻すまでは[機器の処理状態]表示で処理状態を変更することができません。

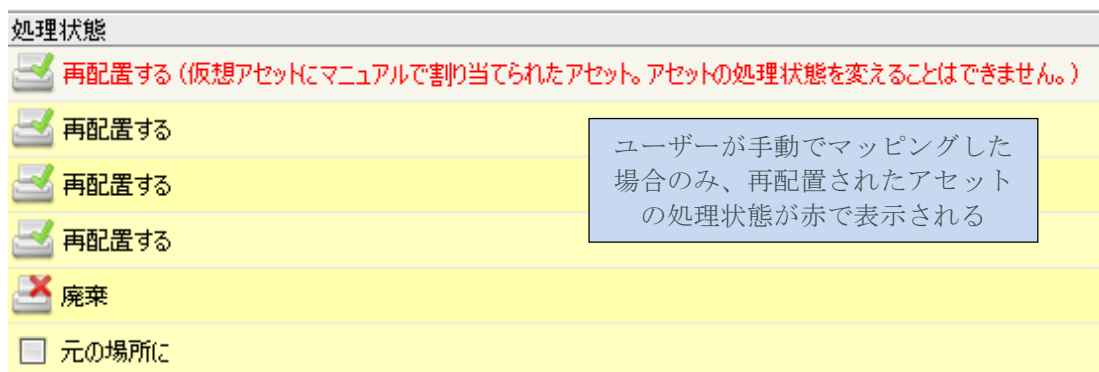


図 43. 手動でマッピングされたアセットの処理状態

7.16 フィルターの使用

Architect には、Asset DB の基本フィルター（Asset DB Analyst マニュアルを参照してください）に加えて、ソリューションステータスに該当する機器のみを表示できるフィルターが用意されています。Architect 固有のフィルターは左下のパネルの [フィルター] タブ内の [ソリューション] タブにあります。

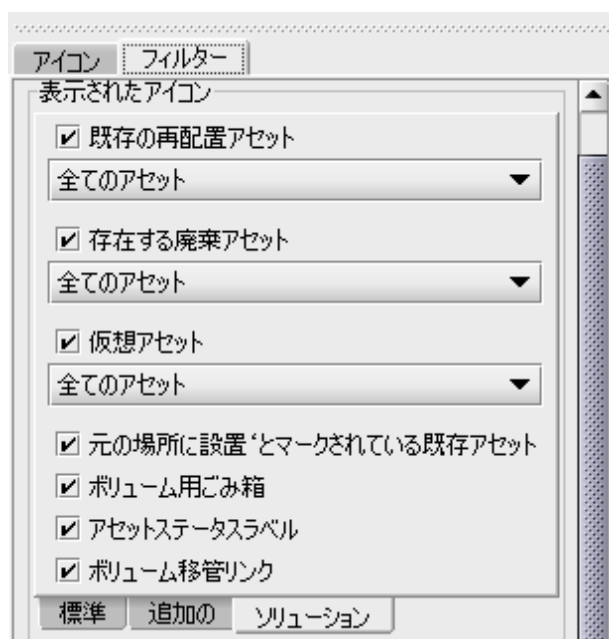


図 44. Architect の [フィルター] タブ

各チェックボックスを使用して、以下のアセットの表示／非表示を制御できます。

- **既存の再配置アセット**：オフにすると、すべての再配置されたアセットが非表示になります。オンにすると、ドロップダウンの選択内容に応じて次のようにアセットが表示されます。
 - すべてのアセット – すべての再配置されたアセットが表示されます。
 - ボリュームがゼロのアセットのみ – ボリュームがゼロの再配置されたアセットのみが表示されます。
 - 未決済のボリュームのアセットのみ – 移管の完了していないボリュームを持つ再配置されたアセットが表示されます。



- **存在する廃棄アセット**：上記の既存の再配置されたアセットに基づくチェックボックスとドロップダウン。
- **仮想アセット**：オフにすると、すべての仮想アセットが非表示になります。オンにすると、ドロップダウンの選択内容に応じて次のようにアセットが表示されます。
 - すべてのアセット－すべての仮想アセットが表示されます。
 - マニュアル変更のみ－ユーザーが制御する仮想アセットのみが表示されます。
 - コントロールされたソリューション生成機能のみ－ソリューションジェネレーターが制御する仮想アセットが表示されます。
- **無視とマークされた既存のアセット**：オフにすると、[無視] とマークされたすべてのアセットが非表示になります。オンにすると、[無視] とマークされたすべてのアセットが表示されます。
- **ボリュームごみ箱**：ボリュームごみ箱の表示／非表示を切り替えます。
- **アセットステータスラベル**：セクション 7.12 の説明を参照してください。
- **ボリューム移管リンク**：セクション 7.1 で説明されているボリューム移管のリンクの表示と非表示を切り替えます。

フィルターの適用中は[フィルター]タブのタイトルが赤で表示され、フィルターがアクティブであることを示します。

7.17 [統計] タブ

標準の Asset DB 統計タブの機能が拡張され、[ソリューションデザイン] 表示で既存アセットと仮想アセットの両方の合計データを表示できるようになりました。

環境ト		ユーザー/機器比率	
統計		ファイナンス	
プロジェクトごとの 数量: ABC_2011			
プリンタ		10/0/0	
MFD		1/0/0	
既存のプリンター台数 (10)		0/0/0	
スコープ外プリンター台数 (0)		0/0/0	
消耗品		0/0/0	
ファイナルキャビネット		0/0/0	
人		0/0/0	
人のグループ		0/0/0	
写真		0/0/0	
フォローアップ		0/0/0	
空間測定		0/0/0	

図 45. [ソリューションデザイン] 表示の [統計] タブ



7.18 [ファイナンシャル] タブ

現在の状態に関して作成された TCO 計算の結果が現在の状態のアセットに適用されていて（詳細は Asset DB Analyst マニュアルを参照）、かつ新しいフリートを構成するモデルのプロダクトコストが割り当て済みである場合（セクション 6.1 を参照）、完全なソリューションが生成されると、[ファイナンシャル] タブに現在と将来のコストの比較が表示されます（図 46 を参照）。

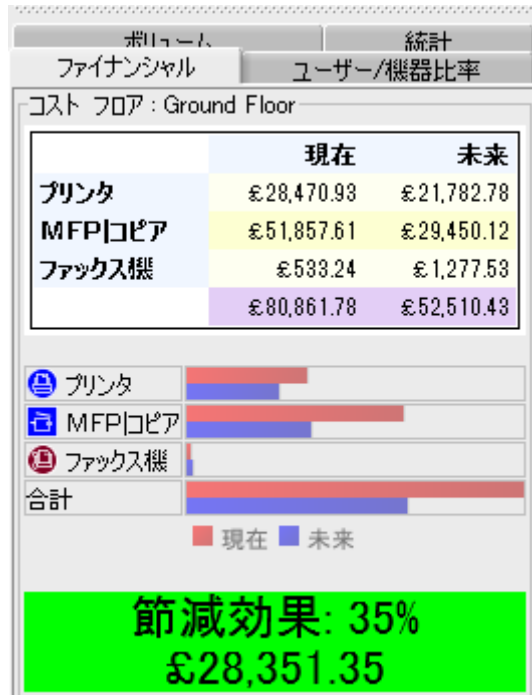


図 46. [ファイナンシャル] タブ

7.19 [ユーザー／機器比率] タブ

[ユーザー／機器比率] タブではユーザーと機器の比率のターゲットを設定し、その目標に達しているかどうかを監視することができます。

目標比率を設定するには、上下の矢印を使用するか、MFD またはプリンターのターゲット値を手動で入力します。

ターゲットが達していない場合はこれらの数値の隣に赤い X が表示されます（これはフロアにこのタイプの機器が多すぎることを示します）。選択したオブジェクト（フロアやビルなど）のターゲットに達した場合には、緑のチェックが表示されます。

選択したオブジェクトの実際の現在と未来の比率も表示されます。この機能は、フロアまたはビルのレベルで「スタッフ人数」フィールドに入力されているデータに依存します。「ユーザー」やユーザーグループのアイコンをフロアプランにドロップしても、ユーザー対機器の比率計算に使用される「スタッフ人数」フィールドには影響しません。

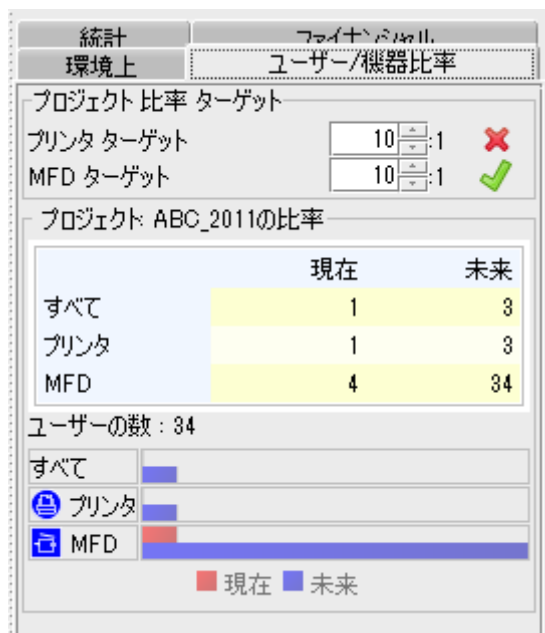


図 47. [ユーザー/機器比率] タブ

8 [フューチャーステート（将来の状態）] タブ

[フューチャーステート（将来の状態）] タブは Architect の最終結果の表示であり、[ソリューションデザイン] 表示でデザインした新しい印刷フリートを表すために使用されます。

ソリューションジェネレーターが特定のフロアについて完全なソリューションを生成できなかった場合には、フロアの [フューチャーステート] タブを開くと警告が表示されます。この時点で [ソリューションデザイン] タブに戻ってソリューションを修正し、完了させることができます。

8.1 変更の要約の表示

ツールバーにある「変更の表示／非表示」ボタンを使用して、フロアの変更内容のビジュアルな要約を表示できます。

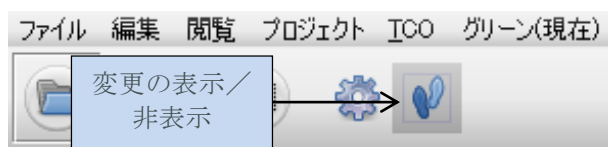


図 48. 「変更の表示／非表示」ボタン



デザインプロセスの結果発生する変更には、次のようにいくつかのタイプがあります。

- 「X」でマークされたアセット：古いフリートからの廃棄されたアセットです。
- 青い線でマークされたアセット：古いフリートから再配置されたアセットで、フロア内で移動されたものです。青い線の始点はアセットの起源（つまり、現在どこにあるか）を示し、再デザインの結果どこに移動されたかを示します（アセットアイコン自体）。
- 「？」でマークされたアセット：古いフリートから再配置されたアセットのうち、新しいフリートに作成された仮想機器にマッピングされていないものです。
- 赤い△でマークされたアセット：古いフリートから再配置されたアセットのうち、このフロアから別のフロア（別のサイトやビルのフロアも含みます）に移動されるものです。各アセットがどこに移動されるかを確認するには、マウスのカーソルをアセットに合わせると、その移動先のフロアと位置が表示されます。
- 緑の△でマークされたアセット：古いフリートから再配置されたアセットのうち、別のフロアから現在のフロアに移動されるものです。上記と同様、各アセットがどこから移動されるかを確認するには、マウスのカーソルをアセットに合わせます。
- 何もマークがなく金色の星があるアセット：これは、まだ存在しない新しいアセットです。
- マークのついていないアセット：元位置に配置済みとしてマークされた機器です。

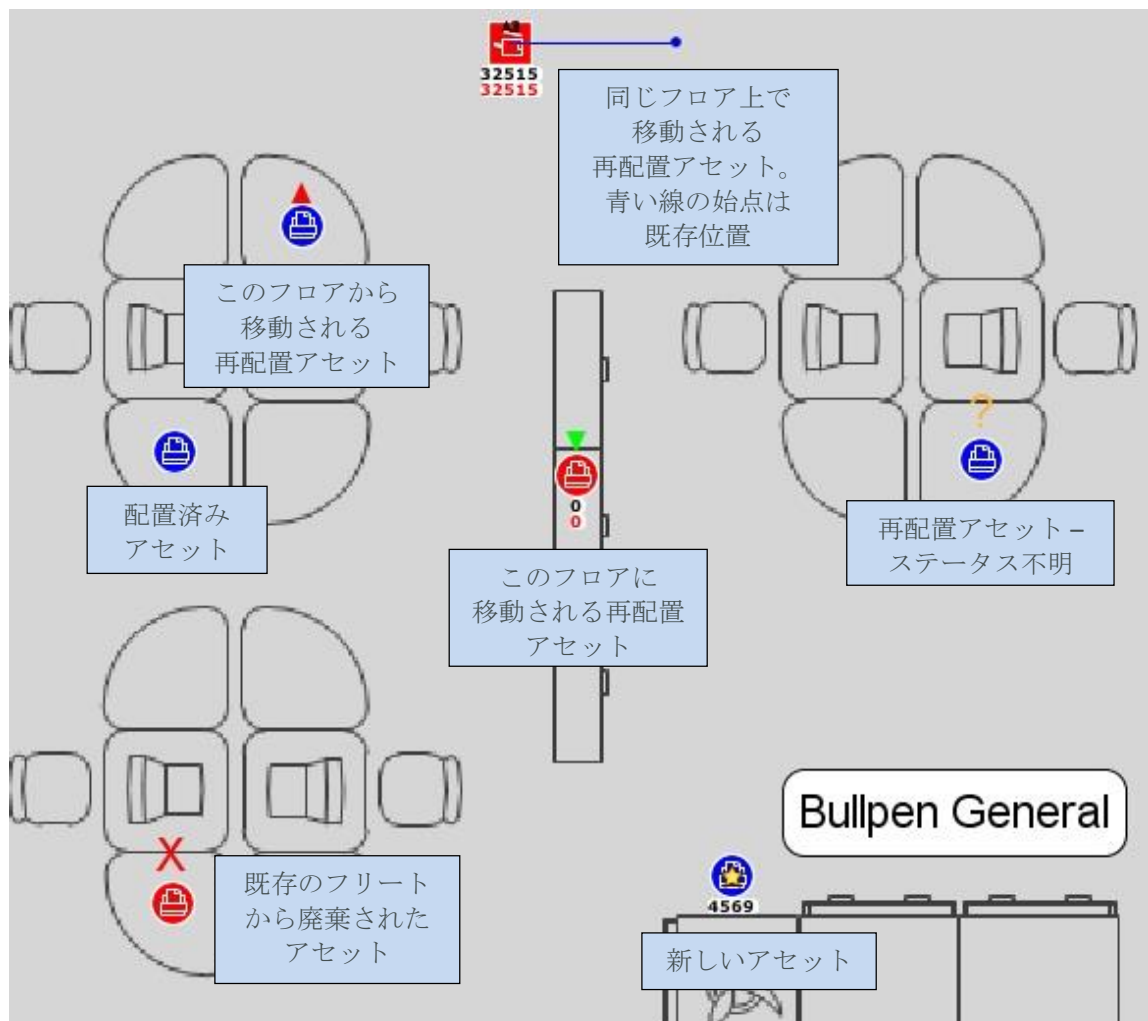


図 49. 変更の要約表示



9 の状態のグリーン分析の作成

現在の状態と同様に、将来の状態でもアセットのグリーン分析を作成できます。

将来の状態でグリーン分析を開始するには、[ファイル]>[新しい]>[グリーン分析（将来の状態）]をクリックします。すると[グリーン分析（将来の状態）]タブが作成されます。

将来の状態でグリーン分析を実行する基本手順は現状のグリーン分析の場合と同じです。これは Asset DB Analyst マニュアルで説明されているので、本マニュアルでは詳述しません。

9.1 将来の状態の推測値

将来の状態と現在の状態のグリーン分析の大きな違いの1つは推測値のセットにあります。図 50 にあるように、両面印刷のパーセンテージを追加するオプションが追加されています。

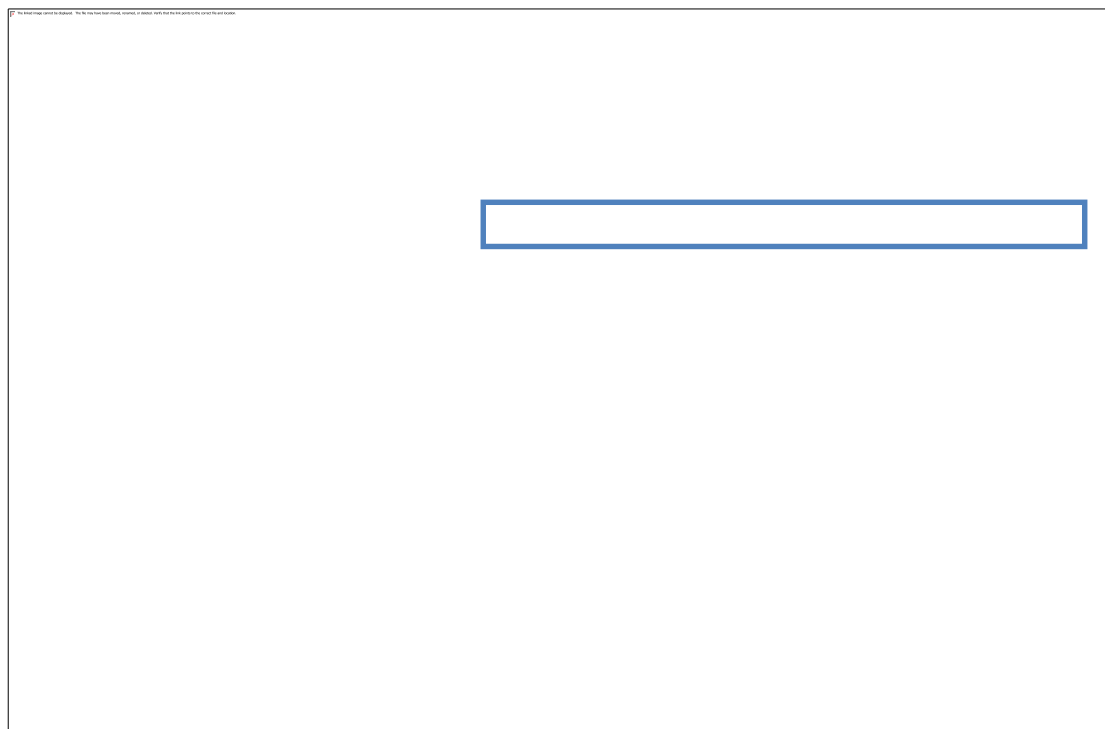


図 50. 将来の状態のグリーン分析の推測値

これにより、デザインで必要とされる場合、増大した両面印刷のパーセンテージを割り当てることが可能になります。



10 ソリューションレポートの作成

Architect には、フリートの再デザインにより発生する変更の要約レポートを作成する機能があります。[レポート]>[実行する]を選択します。

ここで作成できるシステムソリューションのレポートは 3 種類あります。

10.1 移動および変更のレポート

これは再デザインの結果、既存の印刷環境に発生する変更のすべてを要約したものです。レポートは PDF または Word 形式で作成され、テキスト情報に加えてフロアプランの画像も含まれています。テキスト情報にはサイト／ビル／フロアごとに整理された表があり、既存のフリート内の各アセットの処理状態と、再デザインのために購入が必要な新しいアセットの一覧が表示されます。

フロアごとに以下の画像が作成されます（該当する場合）。

- 既存のフリートからの廃棄予定のアセットがあるフロアプラン。
- 既存のフリートからの再配置が予定されるアセットのあるフロアプラン。再デザインの結果必要となった、フロア内またはフロア間で行われるアセットの移動がすべて含まれます。
- フロア用に購入が必要な新しい機器を示すフロアプラン。
- 変更の要約を示すフロアプラン。これは上記 3 種類のフロアプランのすべての変更を 1 ページに要約したものです。

10.2 機器の処理状態レポート

このレポートは、既存のフリートからのすべての機器および、再デザインの結果購入が必要な新しい機器をすべて一覧したものです。レポートは Microsoft Excel 形式で作成されます。機器は廃棄、再配置、配置済み、新規、の各セクションごとに個別のワークシートにまとめられます。各機器のすべての属性が表示されます。

10.3 将来の状態の提案

Asset DB ではフューチャーステート（将来の状態）の提案レポートも作成できます。提案された将来の状態の詳細を示すレポートは、顧客への提出に使用できます。

このレポートの内容は、現状を要約するプリントアセスメント要約レポートの内容を反映しています。詳細については、Asset DB Auditor マニュアルのプリントアセスメント要約レポートの項を参照してください。

レポートを作成するには、トップメニューの [レポート] から [実行する] を選択します。表示されたリストから [フューチャーステート提案] を選択して [実行する] を選択します。注：レポートを作成するには、Asset DB に完全なソリューションとログが準備されている必要があります。



レポートは保存ウィンドウのオプションを使用して Word、PDF、PowerPoint などさまざまな形式で保存できます。レポートには Asset DB ソリューションのデータから作成されたチャートが含まれます。また、フューチャーステート Asset DB 画面で設定された情報に基づくフロアプランも含まれます（つまり、レポートのプランは Asset DB で設定したすべての表示オプションに従って表示されます）。

10.4 ソリューションレポートの編集

Asset DB のレポート エディターツールを使用して、システムレポートの構造とスタイルを編集したり、新しいソリューションレポートを作成することも可能です。手順の詳細はレポートエディターのマニュアルを参照してください。

レポートエディターツールの詳細については、info@newfieldit.com までお問い合わせください。

11 ソリューションのエクスポートとインポート

ソリューションデータを Architect からエクスポートするには 3 つの方法があります。

「新しい」機器のみを含むスタンドアロンの Asset DB プロジェクトとしてエクスポート、現在の状態のプロジェクトとソリューションのペアとしてエクスポート、あるいは 1 つのソリューションファイルとしてエクスポートすることも可能です。

11.1 Asset DB プロジェクトへのソリューションのエクスポート

ソリューションを Asset DB プロジェクトにエクスポートできます。このタイプのエクスポートでは [フューチャーステート（現在の状態）] 表示にある再デザイン後のフリートを表す新しい Asset DB プロジェクトが作成されます。この方法でエクスポートするには、メニューバーの [ソリューション]> [将来の状態からプロジェクトを作成する] を選択します。

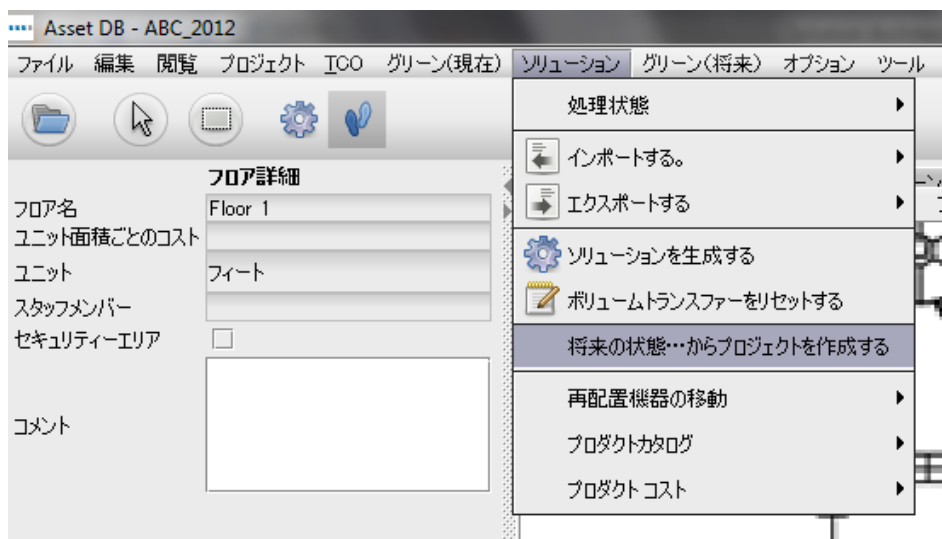


図 51. プロジェクトにエクスポートする



エクスポートされたプロジェクトは標準の Asset DB プロジェクトであり、ソリューション関連のデータは存在しない点に注意してください。プロジェクトを開くと、他のプロジェクトと非常に似ていることがわかります。Asset DB は、プロジェクトの起源に関するごく基本的な情報を維持します。この情報を確認するには、[プロジェクト詳細を表示] メニューオプションを選択します。プロジェクトを作成したユーザーの ID、作成日時、プロジェクト作成基盤のソリューションを示すダイアログが表示されます。

便利なヒント： 将来の状態からのプロジェクト作成は、現在の状態と将来の状態を CompleteView で表示するには不可欠な作業です。CompleteView は現在の状態データのみを参照できるので、現在の状態と将来の状態を比較するには、将来の状態を個別のプロジェクトとして作成する必要があります。

11.2 プロジェクトとソリューションのペアとしてのソリューションデータのエクスポート

ソリューションデータは、プロジェクトとソリューションのペアとしてもエクスポートできます。このタイプのエクスポートでは、ソリューション関連のデータを保持したままデータをインポートすることが可能です。基盤となる Asset DB プロジェクトとソリューションの両方がエクスポートされます。

ソリューションをこの方法でエクスポートするには、プロジェクトとソリューションをエクスポートするメニューオプションを使用します。

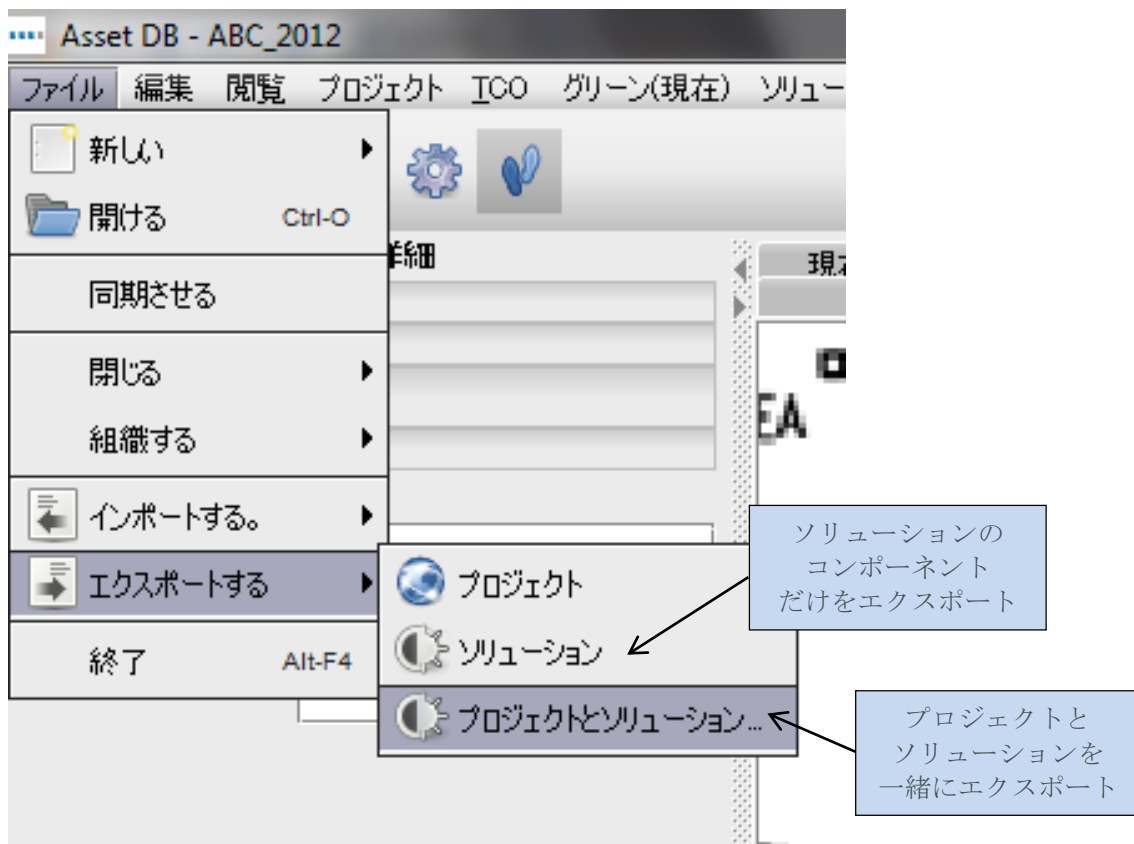


図 52. ソリューションデータのエクスポート

エクスポートされたデータには、プロジェクトとソリューションを別の Asset DB Architect インスタンスとして複製するために必要な情報がすべて含まれています。



便利なヒント : Asset DB Cloud にアクセスできる場合、データがバックアップされるよう、プロジェクトをサーバーに同期してソリューションのみをエクスポートする方法を推奨します（セクション 11.3 を参照）。この方法では、ソリューションを常にプロジェクトの最新バージョンにリンクしておくことができます。

11.3 ソリューションのみのエクスポート

ソリューションデータをエクスポートする最後の方法は、プロジェクトのソリューション要素のみをエクスポートします。

この方法でソリューションをエクスポートするには、図 52 にあるように、メニューから [ソリューション] のエクスポートオプションを使用します。

11.4 ソリューションデータのインポート

プロジェクトとソリューションのペアとしてエクスポートしたソリューションデータを、[プロジェクトとソリューション] のインポートオプションを使用して再インポートすることができます。



図 53. ソリューションデータのインポート

ソリューションデータは、新しい Asset DB プロジェクトとそのソリューションとしてインポートされます。ここでは次の点を理解しておく必要があります。プロジェクトとソリューションのファイル (.ats) としてソリューションデータをエクスポートした後でこれを同じ Asset DB インスタンスにインポートした場合でも、新しいプロジェクトとソリューションが作成されます。新しいプロジェクトは元のプロジェクトと同じ名前ですが、末尾に「(コピー)」が付加されます。

単独のソリューション要素を元のプロジェクトにインポートして戻すには、ソリューションをインポートするメニューオプションを使用できます。ここで重要なのは、ソリューションはそれが最初に作成されたプロジェクト以外のプロジェクトにはインポートできない、という点です。

しかし、元のプロジェクトの同期バージョンにはインポートできます。



注：エンタープライズサーバーにアクセスできる場合、プロジェクトを常にエンタープライズサーバー経由で共有し、[ファイル]>[エクスポートする]>[ソリューション] オプションを使ってソリューションをエクスポートすることを推奨します。

12 無効な変更

一般的に、ソリューションデザインの作業を開始した後で現状データを変更することは推奨できません。変更を行うと Architect が変更を記録し、自動的に必要な調整を行います。しかし、自動調整が不可能な場合、手作業で修正しない限りソリューションは無効になります。以下のセクションで、ソリューションの無効化につながる最も一般的な原因について説明します。

12.1 既存フリートのボリュームの調整

デザインを開始した後でボリュームデータを調整する場合、以下の条件が適用されます。

機器のボリュームは問題なく増加できます。注：機器のボリュームを増やすには [ソリューションデザイン] 表示に戻り、仮想アセットに追加のボリュームを移管する必要があります。また、ソリューションジェネレーター機能を再実行する必要もあります。

機器のボリュームは削減可能ですが、削減後のボリュームが [ソリューションデザイン] 表示内のアセットから移管されたボリューム量を下回ることはできません。たとえば、アセットの元のボリュームが 500 であり、ソリューションデザインプロセスで仮想印刷環境に 200 を移管したとすると、そのアセットのボリュームを 200 以下に削減することは推奨されません。ボリュームをこの数値以下に調整するとソリューションが無効となり、[ソリューションデザイン] 表示にボリュームが負の値として表示される原因となります。

12.2 既存アセットの削除

機器が廃棄とマークされていて、その機器からのボリュームが仮想機器に移管されていない場合、ソリューションデザインの作業開始後にその機器を既存のフリートから削除しても問題はありません。保持とマークされた機器が削除された場合には、ソリューションジェネレーター機能を再実行しなければなりません。これは、機器が仮想環境に割り当てられている可能性があり、その場合は削除する必要があるためです。

12.3 メーカーとモデルデータの変更

機器のメーカーまたはモデルが変更され、その機器が保持とマークされている場合、プロダクトカタログに戻って、ボリュームのプロファイルにその新しいメーカーとモデルを指定する必要があります。



13 よくある質問

Architect は柔軟性に優れた便利なツールです。以下に、サポート部門によく寄せられる質問とその答えを示します。

「In Situ（配置済み）」とはどういう意味ですか。「配置済み」の機器にボリュームを追加することはできませんか。

「In Situ」はラテン語で「元の場所のまま」、「元の状況のまま」という意味です。Architect では、新環境への移行にあたりその機器が一切変更されないことを示します。これにはボリュームの追加も含まれます。したがって、「配置済み」の機器にボリュームを追加することはできません。ボリュームを増やすには、機器の処理状態を「再配置」にします。

プロダクトカタログを取得する方法を教えてください。

Newfield IT ではユーザー向けに提供可能なプロダクトカタログの保持や保守は行っていません。お客様独自のカタログを作成してください（セクション 5.4 を参照）。機器の構成やコストデータは各グループ、企業、およびユーザーごとに異なるため、汎用のプロダクトカタログを準備するのは不可能です。最初にカタログを作成する際は若干時間がかかりますが、いったん作成したカタログは保存して同僚とも共有することができます。これには [ソリューション] > [エクスポートする] > [製品カタログ] および [ソリューション] > [インポートする] > [製品カタログ] を使用します。

現在の状態にある「再配置」と「配置済み」の機器のコストが、将来の状態の [プロダクトコスト] タブに持ち越されないのはなぜですか。

Asset DB では、将来の状態にあるすべての機器が、現在の状態とは異なる方法で管理されることを前提としています。将来の提案で月間コストやページあたりコストの値に当初の設定と同じ額を使用することはあまりありません。したがって、コスト情報は将来の状態に持ち越されず、新しいシナリオでうっかりチェックマークを付け忘れることもありません。